

大学機関別認証評価

自己評価書

令和元年6月

長岡技術科学大学

目 次

I	大学の現況、目的及び特徴	1
II	基準ごとの自己評価	
	領域1 教育研究上の基本組織に関する基準	7
	領域2 内部質保証に関する基準	10
	領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準	20
	領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準	32
	領域5 学生の受入に関する基準	40
	領域6 教育課程と学習成果に関する基準	45
	教育研究上の基本組織	
	工学部	46
	工学研究科	142
	技術経営研究科	318

I 大学の現況、目的及び特徴

1 現況

- (1) 大学名 長岡技術科学大学
 (2) 所在地 新潟県長岡市
 (3) 教育研究上の基本組織

学士課程	工学部
大学院課程	工学研究科、技術経営研究科

- (4) 学生数及び教員数（令和元年5月1日現在）

学生数	学部 1,142 人、大学院 1,187 人
教員数	専任教員数：198 人、助手数：1 人

2 大学等の目的

本学は、実践的、創造的な能力を備えた指導的技術者を育成するとともに、実践的な技術の開発に主眼を置いた研究を推進することを目的としている。（長岡技術科学大学学則）

〔教育研究の基本理念〕（学部履修案内）

科学技術の在り方とその社会的役割について常に考えながら、人類の繁栄に貢献し得る新たな技術の開発と、これを担う実践的・創造的な能力を備えた指導的技術者を養成することが本学創設の趣旨に対応する基本的理念である。実践的な技術の開発を主眼とした教育研究を行う工学系の大学として、新構想のもとに設置された本学は、「技術科学」すなわち“技学”を創出し、それを担う創造的・実践的な技術者の養成を行い、またこれらを通じて社会との連携を図ることを基本理念としている。

“技学”とは、「現実の多様な技術対象を科学の局面から捉え直し、それによって技術体系を一層発展させる技術に関する科学」である。それは、「実践の中から学理を引き出し、その学理を再び実践の中で試すという、学理と実践の不断のフィードバック作用による両者の融合」を目指すとともに、「理学、工学から実践的技術、さらには管理科学等の諸科学に至るまで、幅広く理解し、応用すること」を期待するものである。

本学における教育研究の基本理念は、“VOS”という言葉に象徴される。ここに、Vは Vitality であって、学理と実践の不断のフィードバックを行う活力を、Oは Originality であって、科学技術に関する創造的な能力の啓発を、Sは Services であって、技術科学をもって人類の幸福と持続的繁栄に奉仕することを意味している。

大学院では、創造的で高度な研究開発能力を備えた技術者及び研究者の育成を目指している。本学は学部一修士一貫教育をその設立の趣旨としており、学

生諸君全員が修士課程に進むことを原則としている。

上記の基本理念に基づき、教育面において以下の目的を掲げている。

1. 自然環境、人類の文化的・経済的活動など、技術科学をとりまく諸事情を理解し、広い視野を持って人類の幸福と持続的繁栄に技術科学を応用する意義を正しく認識した技術者を育成すること。
2. 技術科学を開発し実践する者の社会に対する責任を自覚し、説明する能力を有した技術者を育成すること。
3. 地域、国家、国際規模で、技術科学を実践する視野を持ち、またその基礎となる、意思疎通能力を有した技術者を育成すること。
4. 社会の変化に対応し、新しい情報を柔軟に取り入れることができ、生涯を通じて、自己の能力を高めることができる技術者を育成すること。
5. 技術科学の専門分野に関して、確固たる基礎的知識に立脚した高い専門知識と応用力を有した技術者を育成すること。
6. 新しい技術科学分野を開拓する創造力を有した技術者及び研究者を育成すること。
7. 技術科学の実践において、指導的な役割を果たすことができる技術者を育成すること。

〔学士課程・大学院課程等ごとの目的〕（長岡技術科学大学学則）

≪学士課程≫

【機械創造工学課程】

機械工学を構成する諸分野(情報・制御、設計・生産、人間環境、材料等)に関する専門知識及び実践的技術感覚を身に付けた技術者の育成。

【電気電子情報工学課程】

電気工学、電子工学、情報通信工学の基本的な専門知識を備え、これらの学際領域及び関連分野の諸課題に対応し、社会に貢献する実践的能力を備えた人材の育成。

【物質材料工学課程】

基礎的な専門知識及び実践技術感覚をベースに新材料並びに新プロセスの開発に資する能力のある創造的な人材の育成。

【環境社会基盤工学課程】

環境と調和した健全な社会基盤施設を、適切に計画・建設・維持するための総合的視野を有し、グローバルな視点から、サステイナブルな社会への貢献、巨大災害への対応ができる実践的・創造的能力を備えた人材の育成。

【生物機能工学課程】

系統的な講義科目の履修や実験と演習に重点を置いた教育の下で、生物の機能をエネルギー、情報、物質の観点から理解し、生物が持つ多様な機能を、直接、更に拡張して工学的に応用できる能力を備えた人材の育成。

【情報・経営システム工学課程】

企業や自治体などの経営組織体に対する社会のニーズが的確に把握でき、経営システムとそれを支える情報システムを新たに創出・提案・実践できる基礎的な能力を備えた人材の育成。

《5年一貫制博士課程》

5年一貫制博士課程は、博士の学位取得を目指す学生が途切れることなく効率的・効果的に研究開発等に取り組むことにより、イノベーション創出及び産業界のリーダーとしてグローバルに活躍できる能力を備えるとともに、高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

【技術科学イノベーション専攻】

海外拠点大学を中心としたグローバル産学官ネットワーク(グローバル融合キャンパス)を土台とした技術科学(技学)教育により、世界で活躍でき、イノベーションを起こせる能力を持ち、日本及び世界の産業を牽引する特に優れたリーダーの育成

《修士課程》

修士課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を養うことを目的とする。

【機械創造工学専攻】

専門知識及び実践的技術感覚をベースに、機械工学を構成する諸分野(情報・制御、設計・生産、人間環境、材料等)における社会的要請に対応できる創造的能力と国際感覚を備えた指導的技術者の育成。

【電気電子情報工学専攻】

電気工学、電子工学、情報通信工学とそれらの学際領域に対応させた高度な教育・研究指導を行い、社会に貢献できる実践的・指導的能力を備えた人材の育成。

【物質材料工学専攻】

専門知識及び実践的技術感覚をベースに新しい材料並びに新しいプロセスの開発を行う能力のある創造的な指導的人材の育成。

【環境社会基盤工学専攻】

環境と調和した健全な社会基盤施設を、適切に計画・建設・維持するための総合的視野を有し、グローバルな視点から、サステイナブルな社会への貢献、巨大災害への対応ができる実践的・創造的能力を備えた指導的人材の育成。

【生物機能工学専攻】

精緻な生物の機能をミクロからマクロなレベルまで幅広く関連させ、工学的応用を目指す生物機能工学分野において活躍できる実践的・創造的能力を備えた指導的人材の育成。

【情報・経営システム工学専攻】

企業や自治体などの経営組織体に対する社会のニーズが的確に把握でき、経営システムとそれを支える情報システムを新たに創出・提案・実践できる能力を備えた指導的人材の育成。

【原子力システム安全工学専攻】

基盤工学の専門知識の上に、原子力工学及びシステム安全の専門知識を身につけた原子力の安全確保のできる実践的・指導的人材の育成。

《博士後期課程》

博士後期課程は、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

【情報・制御工学専攻】

情報通信・処理、知識情報、計測・制御及び人間工学に関する分野の進歩・発展に貢献できる実践的な研究能力・技術開発能力とその基盤となる豊かな学識をもった技術者・研究者の育成。

【材料工学専攻】

多様な新素材や構造材料の解析・設計・製造、高付加価値材料の創出と複合化及び材料の評価に関する分野の進歩・発展に貢献できる学術的あるいは実践的研究能力・技術開発能力とその基盤となる豊かな学識をもった技術者・研究者の育成。

【エネルギー・環境工学専攻】

エネルギー開発から省エネルギーに及ぶエネルギーシステム、その根幹をなす機器装置の高性能化を図るエネルギー材料及び風土に適合した環境システムに関する分野の進歩・発展に貢献できる実践的な研究能力・技術開発能力とその基盤となる豊かな学識をもった技術者・研究者の育成。

【生物統合工学専攻】

幅広いバイオテクノロジーの展開に応じた新規生体高機能分子の設計と創造、安全で安心な環境のための持続技術の開発、高次生体機能の解明及び医療・福祉技術向上など生命科学と化学・情報・環境科学を統合した分野の進歩・発展に貢献できる実践的な研究能力・技術開発能力とその基盤となる豊かな学識をもった技術者・研究者の育成。

《専門職学位課程》

専門職学位課程は、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した実務能力を培うことを目的とする。

【システム安全専攻】

国内外の安全規格・法規の上に立ち、システムの災害、リスク及び安全の解析プロセスを対象に、安全技術とマネジメントスキルを統合して応用するシス

テム安全に関する実務教育を通じた専門職の育成。

3 特徴

本学の理念は、「社会の変化を先取りする、” 技学” を創成し、未来社会で持続的に貢献する実践的・創造的能力と奉仕の志を備えた指導的技術者を養成する、大学院に重点を置いたグローバル社会に不可欠な大学を目指す」である。この理念のもと、他大学にはない教育研究プログラムの実施と、グローバル化に向けた国際交流を積極的に推進している。

(1) 本学の学部定員は、その8割が高等専門学校（以下、「高専」という）及び専門高校からの入学者、2割が普通高校からの入学者で構成される。実験と実習を重視し、かつ、学士課程と修士課程に基礎科目及び専門科目を系統的に配置したカリキュラムを編成し、学部・修士の一貫教育を行っている。

(2) 本学は、長期インターンシップ制度を「実務訓練」の科目名称で開学当初から実施している。学生は修士課程進学前の約5カ月間、派遣先の社員の方々と共に働き指導を受けながら実践的な感覚を養い、社会や組織の現実を経験する。平成30年度では、275機関で373名の学生が指導を受けている。

平成30年度に実施した、平成27年度～平成29年度に本学学生が就職した企業を対象とした調査では、本学学生の3年以内の離職率は4.6%であり、全国平均の21.6%を大幅に下回った。実務訓練を履修した修了生へのアンケートでも、上司との接し方、計画の進め方など、課題解決力の習得を成果として挙げており、本学独自の教育プログラムが修了後の活動に反映していることを実証している。

(3) 本学は、約100の海外機関との学術交流協定を締結し、また、ツイニング・プログラム等の国際連携教育を実施するなど、国際交流を積極的に推進している。現在、約27の国・地域から318名の外国人留学生在が本学に在籍し、留学生比率は約13%と非常に高い数値となっている。

また、海外で実施する実務訓練では、学術交流協定校や同大学の共同研究先機関が受入先となり、毎年60名を超える日本人学生が海外で指導を受けている。実務訓練生は、語学研修を含めた6カ月の実務訓練期間中、教育・技術指導に加え、生活習慣や考え方の違いなど、グローバル社会に対応した知識を学修する。

海外実務訓練以外でも、海外渡航の機会を提供している。修士課程進学後は、学術交流協定に基づく研究指導委託（指導教員推薦による海外研究機関への指導委託で、派遣期間は原則1年以内）、グローバルリーダー養成のための短期海外派遣プログラム（学生が研究機関と研究課題を選定し、派遣期間は約1カ月）を実施している。

また、海外実務訓練の実績をもとに、専門知識を修得した修士課程学生がグローバルな視点と多様性を有する技術者となることを目的に、平成30年度に「修士海外研究開発実践（リサーチインターンシップ科目）」を新設した。渡航中に受講できない修了要件単位となる科目の調整を専攻ごとに設定し、当該科目が履修しやすい環境を整備している。

(4) 本学は、スーパーグローバル大学創生支援事業の採択により、国際連携教育及び国際産学官連携を推し進め、国際的感覚を養い、グローバルニーズに応えイノベーションを起こす実践的技術者を輩出するため、海外6カ国にグローバル産学官融合キャンパスを設置した。各キャンパスは、各地域における本学との学術協定大学や企業等の情報を収集し、海外で修学を希望する学生の専攻分野を基に、学生を受入れる大学・企業等の選定と仲介を行う。学生は、

専攻する最先端の研究・技術に触れながら指導を受け、次世代を担う技術者としての素養を身に付けることができる。

(5) 本学は、平成 29 年 9 月、国連アカデミック・インパクトへの参加が承認され、さらに、UNESCO に「技学 SDG インスティテュート」プログラムを申請し、平成 30 年 5 月に UNESCO Chair として認定された。国内では 9 番目、工学系大学では国内初の認定となる。

このプログラムは、SDGs（国連の持続可能な開発目標）を踏まえた教育システムを構築し、質の高いエンジニアを育成すること、創造的人材育成を強化すること、将来の工学教育のあり方を整えること、科学やテクノロジー、イノベーション創出力を強化すること、そして持続可能な開発のために科学的な国際連携を推進することをその達成目標としている。

今後、プログラムを進め、人材育成の実績を積み重ね、理念を共有する国内外の大学との連携を深めることで、将来的に「技学 SDG インスティテュート」を複数国の複数高等教育機関等から構成される世界的なネットワーク「ユニツイン」へと発展させ、ユネスコの認定を受けることを目標に、SDGs 達成による課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする教育プログラムの世界展開を推進する。

Ⅱ 基準ごとの自己評価

領域 1 教育研究上の基本組織に関する基準

基準 1-1 教育研究上の基本組織が、大学等の目的に照らして適切に構成されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目 1-1-1 学部及びその学科並びに研究科及びその専攻の構成（学部、学科以外の基本的組織を設置している場合は、その構成）が、大学及びそれぞれの組織の目的を達成する上で適切なものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価書の「Ⅰ 大学の現況、目的及び特徴」に記載のため、新たな資料は不要 前回評価以降に改組があった場合は、大学の設置等の認可申請・届出に係る提出書類の様式（別記様式第 2 号（その 1 の 1）基本計画書） 根拠資料 1-1-1-1 環境社会基盤工学課程（設置計画の概要） 根拠資料 1-1-1-2 技術科学イノベーション専攻、環境社会基盤工学専攻（設置計画の概要） 共同教育課程を置いている場合は、大学間で取り交わされた協定書、教育課程の編成・実施その他運営のための協議会の設置を定める文書及びその協議会の開催状況が分かる資料
【特記事項】	
① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を 400 字以内で記述すること。	
分析項目 1-1-1	改組の経緯等については、根拠資料 1-1-1-1、1-1-1-2 の設置計画の概要に記載している。
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料</u> とともに <u>簡条書き</u> で記述すること。	
活動取組 1-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> ①当該基準を満たす <input type="checkbox"/> ②当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準 1-2 教育研究活動等の展開に必要な教員が適切に配置されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄

分析項目 1-2-1 大学設置基準等各設置基準に照らして、必要な人数の教員を配置していること	・ 認証評価共通基礎データ様式 認証評価共通基礎データ様式
分析項目 1-2-2 教員の年齢及び性別の構成が、著しく偏っていないこと	・ 教員の年齢別・性別内訳（別紙様式 1-2-2） 別紙様式 1-2-2 教員の年齢別・性別内訳
【特記事項】 ① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を 400 字以内で記述すること。	
分析項目 1-2-0	該当なし
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組 1-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） ■ ①当該基準を満たす □ ②当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし	
改善を要する事項 ・ 該当なし	

基準 1-3 教育研究活動を展開する上で、必要な運営体制が適切に整備され機能していること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目 1-3-1 教員の組織的な役割分担の下で、教育研究に係る責任の所在が明確になっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織体制が確認できる規定類（学則、運営組織規定） ・ 責任体制が確認できる規定類（学則、運営組織規定） 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 根拠資料 1-3-1-2 長岡技術科学大学組織・運営規則 ・ 責任者の氏名が分かる資料 根拠資料 1-3-1-3 平成 31 年度理事、副学長、専攻長等、附属図書館長、学内共同教育研究施設長等一覧 ・ 教員組織と教育組織の対応表（別紙様式 1-3-1）

	別紙様式 1-3-1 教員組織と教育組織の対応表
分析項目 1-3-2 教授会等が、教育活動に係る重要事項を審議するための必要な活動を行っていること	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等の組織構成図、運営規定等 根拠資料 1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 根拠資料 1-3-2-2 長岡技術科学大学教授会規則に関する申合せ 根拠資料 1-3-2-3 長岡技術科学大学代議員会規程 根拠資料 1-3-2-4 代議員の選出方法等に係る申合せ 規定上の開催頻度と前年度における開催実績一覧（別紙様式 1-3-2） 別紙様式 1-3-2 規定上の開催頻度と前年度における開催実績一覧
分析項目 1-3-3 全学的見地から、学長若しくは副学長の下で教育研究活動について審議し又は実施する組織が機能していること	<ul style="list-style-type: none"> 組織構成図、運営規定等 根拠資料 1-3-3-1 長岡技術科学大学教育研究評議会規則 規定上の開催頻度と前年度における開催実績一覧（別紙様式 1-3-3） 別紙様式 1-3-3 規定上の開催頻度と前年度における開催実績一覧
【特記事項】	
① 上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を 400 字以内で記述すること。	
分析項目 1-3-0	該当なし
② この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組 1-3-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> ①当該基準を満たす <input type="checkbox"/> ②当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

Ⅱ 基準ごとの自己評価

領域2 内部質保証に関する基準

基準2-1 【重点評価項目】内部質保証に係る体制が明確に規定されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目2-1-1</p> <p>大学等の教育研究活動等の質及び学生の学習成果の水準について、継続的に維持、向上を図ることを目的とした全学的な体制（以下、「機関別内部質保証体制」という。）を整備していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明文化された規定類 根拠資料2-1-1-1 長岡技術科学大学自己評価規則 根拠資料2-1-1-2 長岡技術科学大学大学評価委員会規程 （再掲）根拠資料1-3-3-1 長岡技術科学大学教育研究評議会規則 ・ 内部質保証に係る責任体制等一覧（別紙様式2-1-1） 別紙様式2-1-1 内部質保証に係る責任体制等一覧
<p>分析項目2-1-2</p> <p>それぞれの教育研究上の基本組織が、教育課程について責任をもつように質保証の体制が整備されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明文化された規定類 根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第2条（学部）、第3条（大学院、研究科及び課程）、第9条の2（学部長及び研究科長） ・ 教育研究上の基本組織一覧（別紙様式2-1-2） 別紙様式2-1-2 教育研究上の基本組織一覧
<p>分析項目2-1-3</p> <p>施設及び設備、学生支援並びに学生の受入に関して質保証について責任をもつ体制を整備していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明文化された規定類 根拠資料2-1-3-1 長岡技術科学大学施設環境委員会規則 根拠資料2-1-3-2 長岡技術科学大学附属図書館運営委員会規程 根拠資料2-1-3-3 長岡技術科学大学情報統合管理会議規則 根拠資料2-1-3-4 長岡技術科学大学学生委員会規則 根拠資料2-1-3-5 長岡技術科学大学就職委員会規則 根拠資料2-1-3-6 長岡技術科学大学国際交流委員会規則 根拠資料2-1-3-7 長岡技術科学大学入学試験委員会規則 根拠資料2-1-3-8 入学者選抜改革ワーキンググループ（平成31年度学内委員会等一覧抜粋） （再掲）根拠資料1-3-3-1 長岡技術科学大学教育研究評議会規則 ※第2条（構成）

		<p>・ 質保証について責任をもつ体制への構成員等の一覧（別紙様式2-1-3）</p> <p>別紙様式2-1-3 質保証について責任をもつ体制への構成員等の一覧</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>		
分析項目2-1-0	該当なし	
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>		
活動取組2-1-A	該当なし	
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>		
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <p>・ 該当なし</p>		
<p>改善を要する事項</p> <p>・ 該当なし</p>		

基準2-2 【重点評価項目】内部質保証のための手順が明確に規定されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目2-2-1</p> <p>それぞれの教育課程について、以下の事項を機関別内部質保証体制が確認する手順を有していること</p> <p>(1) 学位授与方針が大学等の目的に則して定められていること</p> <p>(2) 教育課程方針が大学等の目的及び学位授与方針と整合性をもって定められていること</p> <p>(3) 学習成果の達成が授与する学位に相応しい水準になっていること</p>	<p>・ 明文化された規定類</p> <p>根拠資料2-2-1-1 長岡技術科学大学教務委員会規則 ※第2条（審議事項）</p> <p>根拠資料2-2-1-2 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会設置要項 ※第3条（審議事項）</p> <p>根拠資料2-2-1-3 長岡技術科学大学教務委員会教育の質保証部会設置要項 ※第3条（審議事項）</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-3-1 長岡技術科学大学教育研究評議会規則 ※第3条（審議事項）</p>
分析項目2-2-2	<p>・ 明文化された規定類</p>

<p>教育課程ごとの点検・評価において、領域6の各基準に照らした判断が行うことが定められていること</p>	<p>根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条(審議事項)</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-3-1 長岡技術科学大学教育研究評議会規則 ※第3条(審議事項)</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-1-1 長岡技術科学大学教務委員会規則 ※第2条(審議事項)</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-1-2 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会設置要項 ※第3条(審議事項)</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-1-3 長岡技術科学大学教務委員会教育の質保証部会設置要項 ※第3条(審議事項)</p> <p>・教育課程における評価の内容を規定する規定類一覧(別紙様式2-2-2)</p> <p>別紙様式2-2-2 教育課程における評価の内容を規定する規定類一覧</p>
<p>分析項目2-2-3</p> <p>施設及び設備、学生支援、学生の受入に関して行う自己点検・評価の方法が明確に定められていること</p>	<p>・明文化された規定類</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-1-1 長岡技術科学大学自己評価規則</p> <p>・自己点検・評価の実施時期、評価方法を規定する規定類一覧(別紙様式2-2-3)</p> <p>別紙様式2-2-3 自己点検・評価の実施時期、評価方法を規定する規定類一覧</p>
<p>分析項目2-2-4</p> <p>機関別内部質保証体制において、関係者(学生、卒業生(修了生)、卒業生(修了生)の主な雇用者等)から意見を聴取する仕組みを設けていること</p>	<p>・明文化された規定類</p> <p>根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P104(授業アンケートについて)</p> <p>根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P144(授業アンケートについて)</p> <p>根拠資料2-2-4-3 「授業内容と各種能力の修得度自己評価アンケート」について(平成30年度第14回教務委員会資料)</p> <p>根拠資料2-2-4-4 平成30年度第9回教務委員会議事概要</p> <p>根拠資料2-2-4-5 令和元年度授業アンケートの実施について(令和元年度第1回教育方法開発センター会議資料)</p> <p>根拠資料2-2-4-6 実務訓練に関するアンケート(平成30年第4回実務訓練委員会資料)</p> <p>根拠資料2-2-4-7 第7回学生生活実態調査結果(平成28年度実施)</p> <p>根拠資料2-2-4-8 平成30年度第1回就職委員会議事概要</p> <p>根拠資料2-2-4-9 平成30年度第1回就職委員会 資料1-1 平成30年度就職支援事業実施計画一覧(案)</p> <p>根拠資料2-2-4-10 平成30年度第1回就職委員会 資料1-5 長岡技術科学大学出身者就業状況調査結果</p> <p>根拠資料2-2-4-11 平成30年度 学長と学生との懇談会について</p> <p>根拠資料2-2-4-12 平成30年度「高校進路指導・理科担当教員のための最先端技術見学会」の開催について(案)</p>

	<p>(平成30年度第3回入学試験委員会資料)</p> <p>根拠資料2-2-4-13 高校進路指導・理科担当教員のための最先端技術見学会アンケート(案)(平成30年度第3回入学試験委員会資料)</p> <p>根拠資料2-2-4-14 平成30年度「高校進路指導・理科担当教員のための最先端技術見学会」報告(平成30年度第6回入学試験委員会)</p> <p>根拠資料2-2-4-15 第1学年個別学力検査問題の学外点検委員(高等学校教諭等)による点検について(案)(平成30年度第7回入学試験委員会)</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-3-4 長岡技術科学大学学生委員会規則 ※第7条(専門部会)</p> <p>・意見聴取の実施時期、内容等一覧(別紙様式2-2-4)</p> <p>別紙様式2-2-4 意見聴取の実施時期、内容等一覧</p>
<p>分析項目2-2-5</p> <p>機関別内部質保証体制において共有、確認された自己点検・評価結果(設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む。)を踏まえた対応措置について検討、立案、提案する手順が定められていること</p>	<p>・明文化された規定類</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-1-1 長岡技術科学大学自己評価規則</p> <p>・検討、立案、提案の責任主体一覧(別紙様式2-2-5)</p> <p>別紙様式2-2-5 検討、立案、提案の責任主体一覧</p>
<p>分析項目2-2-6</p> <p>機関別内部質保証体制において承認された計画を実施する手順が定められていること</p>	<p>・明文化された規定類</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-1-1 長岡技術科学大学自己評価規則</p> <p>・実施の責任主体一覧(別紙様式2-2-6)</p> <p>別紙様式2-2-6 実施の責任主体一覧</p>
<p>分析項目2-2-7</p> <p>機関別内部質保証体制において、その決定した計画の進捗を確認するとともに、その進捗状況に応じた必要な対処方法について決定する手順が定められていること</p>	<p>・明文化された規定類</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-1-1 長岡技術科学大学自己評価規則</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目2-2-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	

活動取組 2-2-A	該当なし
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p>■ 当該基準を満たす</p> <p>□ 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準 2-3 【重点評価項目】 内部質保証が有効に機能していること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目 2-3-1</p> <p>自己点検・評価の結果（設置計画履行状況等調査において付される意見等、監事、会計監査人からの意見、外部者による意見及び当該自己点検・評価をもとに受審した第三者評価の結果を含む）を踏まえて決定された対応措置の実施計画に対して、計画された取組が成果をあげていること、又は計画された取組の進捗が確認されていること、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画等の進捗状況一覧（別紙様式 2-3-1） 別紙様式 2-3-1 計画等の進捗状況一覧
<p>分析項目 2-3-2</p> <p>機関別内部質保証体制のなかで、点検に必要な情報を体系的、継続的に収集、分析する取組を組織的に行っており、その取組が効果的に機能していること（より望ましい取組として分析）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当する報告書等 根拠資料 2-3-2-1 長岡技術科学大学 IR 推進室規則 根拠資料 2-3-2-2 IR 推進室の働き（機能強化資料からの抜粋） 根拠資料 2-3-2-3 国立大学法人長岡技術科学大学外部評価自己点検書
<p>分析項目 2-3-3</p> <p>機関別内部質保証体制のなかで、学生・卒業生を含む関係者からの意見を体系的、継続的に収集、分析する取組を組織的に行っており、その意見を反映した取組を行っていること（より望ましい取組として分析）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当する報告書等 ・ 領域 4、5、6 の各基準に関して学生等が主体的に作成し、機関別内部質保証体制として確認した報告書等を添付文書とすることができる。 根拠資料 2-3-3-1 学生がゼロから作った学内ハザードマップ
<p>分析項目 2-3-4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当する第三者による検証等の報告書

<p>質保証を行うに相応しい第三者による検証、助言を受け、内部質保証に対する社会的信頼が一層向上している状況にあること（より望ましい取組として分析）</p>	<p>根拠資料 2-3-4-1 情報システム機器群に対する脆弱性検査結果報告書（非公表） 根拠資料 2-3-4-2 情報システム機器群に対する脆弱性検査後の対応状況一覧（非公表）</p>
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目 2-3-2</p>	<p>IR推進室は、学内外の教育研究等に係る情報の収集、分析及び評価を行うことにより、本学の大学運営に係る計画策定、意思決定等を支援し、もって本学の戦略的な大学運営に資することを目的に平成28年度に設置された。教育、研究、地域・国際、大学運営の4つのワーキンググループがそれぞれの領域における活動を客観的に分析し、大学全体の改革につながる提言を行っている。第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の重点支援において、毎年度4件の提言を行うことを目標に評価指標を設定し、「根拠資料 2-3-2-3 国立大学法人長岡技術科学大学外部評価自己点検書」P88にある業務改善案に関する提言をまとめ、学長に答申するなど戦略的な大学運営の実現に向けて積極的に支援を行っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組 2-3-A</p>	<p>教員の教育研究活動の時間確保のために平成28年度に実施した145の学内委員会を101に再編及び構成委員の見直しを行った効果を検証するために会議時間の調査を実施した。その結果、平成28年度と平成29年度を比較すると総会議時間の大幅に削減できていることが確認できた。この分析結果を執行部等へ報告することで学内会議時間を共有でき、平成30年度から実施している1回の会議時間を90分以内とするという教職員の負担軽減策につながった。</p> <p>（再掲）根拠資料 2-3-2-3 国立大学法人長岡技術科学大学外部評価自己点検書 ※P100（4-2.（2）会議時間調査）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

<p>基準 2-4 教育研究上の基本組織の新設や変更等重要な見直しを行うにあたり、大学としての適切性等に関する検証が行われる仕組みを有していること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目 2-4-1</p>	<p>・ 明文化された規定類</p>

<p>学部又は研究科その他教育研究上の組織の新設・改廃等の重要な見直しを行うにあたり、機関別内部質保証体制で当該見直しに関する検証を行う仕組みを有していること</p>	<p>根拠資料 2-4-1-1 長岡技術科学大学将来計画委員会規則 ※第2条（審議事項）</p> <p>根拠資料 2-4-1-2 長岡技術科学大学学内共同教育研究センター委員会規則 ※第3条（審議事項）</p> <p>根拠資料 2-4-1-3 国立大学法人長岡技術科学大学役員会規則 ※第3条（重要事項の決定）</p> <p>・新設や改廃に関する機関別内部質保証体制で審議された際の議事録と当該関係資料</p> <p>根拠資料 2-4-1-4 第148回教育研究評議会 議事要旨</p> <p>根拠資料 2-4-1-5 平成26年度第2回（第97回）役員会議事要旨</p> <p>（再掲）根拠資料 1-1-1-1 環境社会基盤工学課程（設置計画の概要）</p> <p>（再掲）根拠資料 1-1-1-2 技術科学イノベーション専攻、環境社会基盤工学専攻（設置計画の概要）</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目 2-4-1</p>	<p>平成27年度に実施した改組については、「根拠資料 1-1-1-1 環境社会基盤工学課程（設置計画の概要）」P8-11、「根拠資料 1-1-1-2 技術科学イノベーション専攻、環境社会基盤工学専攻（設置計画の概要）」P16-19の記載にある「社会基盤施設維持管理費の増加」、「巨大自然災害への対応」、「国土強靱化法の成立」、「建設技術の伝承と技術者の確保」、「建設技術の国際展開」といった社会的要請を大学として認識したことが発端であった。これまで、建設工学課程では、建設工学の内、ハードの面から社会基盤構造物を構築・維持する主としてゼネラリストを、一方、環境システム工学課程では、建設工学分野の環境に関連する計画・衛生・水文気象といったソフトの学問分野や、生物工学や材料科学分野の専門知識を有する主としてスペシャリストを、養成してきたが、既存社会資本を適切に維持管理・マネジメントすることによるサステナブルな社会の実現や、巨大自然災害に対する防災・減災の推進が、より求められるようになり、建設工学のパラダイムシフトが進行している状況であった。こうした社会的要請を実現するには、ハード・ソフト両面から、社会基盤を適切に計画・建設・維持するための総合的視野を有し、グローバルな視点から、サステナブルな社会への貢献、巨大災害への対応ができる実践的・創造的能力を備えた技術者を養成する必要があり、養成するためには、学部教育を発展させた高度な専門知識と、より高いレベルの実践的・創造的能力を涵養することが必要で、学部教育と連続した大学院修士課程の教育が効率的・効果的であることから、建設工学課程及び環境システム工学課程を環境社会基盤工学課程に、建設工学専攻及び環境システム工学専攻を環境社会基盤工学専攻に改組することを行った。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組 2-4-A</p>	<p>本学における「ミッションの再定義」の中で目標としてあげた、「産業界に役立つ高度な実践的・創造的グローバル技術者育成、並びに技学の創成とそれに基づくイノベーションを起こすことのできる高度な研究開発力とマネージング力を有する産業創造リーダーの育成」を進めるため、平成27年4月に、5年一貫制博士課程の「技術科学イノベーション専攻」を新設した。授業は英語で行われ、従来の工学研究科にはないビジネスやイノベーションに必要な科目を充実した。新潟県魚沼市に立地する国際大学と包括的連携協定を締結し、同大学MBAを取得できるコースを設定している。</p> <p>【根拠資料】</p>

	根拠資料2-4-A-1 ミッションの再定義 根拠資料2-4-A-2 技術科学イノベーション専攻リーフレット
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準2-5 組織的に、教員の質及び教育研究活動を支援又は補助する者の質を確保し、さらにその維持、向上を図っていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目2-5-1</p> <p>教員の採用及び昇格等に当たって、教育上、研究上又は実務上の知識、能力及び実績に関する判断の方法等を明確に定め、実際にその方法によって採用、昇格させていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明文化された規定類 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料2-5-1-1 長岡技術科学大学教員選考基準 (非公表) 根拠資料2-5-1-2 長岡技術科学大学教員選考手続要領 (非公表) 根拠資料2-5-1-3 高専・両技科大間教員交流制度実施要項 (非公表) ・ 教員の採用・昇任の状況(過去5年分)(別紙様式2-5-1) <ul style="list-style-type: none"> 別紙様式2-5-1 教員の採用・昇任の状況 ・ 学士課程における教育上の指導能力に関する評価の実施状況が確認できる資料 ・ 大学院課程における教育研究上の指導能力(専門職学位課程にあっては教育上の指導能力)に関する評価の実施状況が確認できる資料 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料2-5-1-4 教員選定過程報告書(採用) (非公表) 根拠資料2-5-1-5 教員選定過程報告書(昇任) (非公表)
<p>分析項目2-5-2</p> <p>教員の教育活動、研究活動及びその他の活動に関する評価を継続的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明文化された規定類 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料2-5-2-1 長岡技術科学大学教員データベース管理運営委員会規程 (非公表) ・ 教員業績評価の実施状況(別紙様式2-5-2)

	<p>別紙様式 2-5-2 教員業績評価の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の業績評価の内容、実施方法、実施状況が確認できる資料（実施要項、業績評価結果の報告書等） <p>根拠資料 2-5-2-2 長岡技術科学大学教員業績評価実施要領（非公表）</p> <p>根拠資料 2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表）</p> <p>根拠資料 2-5-2-4 長岡技術科学大学教員評価に関する基本方針（非公表）</p> <p>根拠資料 2-5-2-5 長岡技術科学大学年俸制適用教員業績評価要領（非公表）</p>
<p>分析項目 2-5-3</p> <p>評価の結果、把握された事項に対して評価の目的に則した取組を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反映される規定がある場合は明文化された規定類 <p>根拠資料 2-5-3-1 長岡技術科学大学期末手当、勤勉手当規程（非公表）</p> <p>根拠資料 2-5-3-2 長岡技術科学大学年俸制適用職員給与規則（非公表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価結果に基づく取組（別紙様式 2-5-3） <p>別紙様式 2-5-3 評価結果に基づく取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の業績評価の内容、実施方法、実施状況が確認できる資料（業績評価に関連する規定、実施要項、業績評価結果の報告書等） <p>（再掲）根拠資料 2-5-2-2 長岡技術科学大学教員業績評価実施要領（非公表）</p> <p>（再掲）根拠資料 2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表）</p> <p>（再掲）根拠資料 2-5-2-4 長岡技術科学大学教員評価に関する基本方針（非公表）</p> <p>（再掲）根拠資料 2-5-2-5 長岡技術科学大学年俸制適用教員業績評価要領（非公表）</p>
<p>分析項目 2-5-4</p> <p>授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・FDの内容・方法及び実施状況一覧（別紙様式 2-5-4） <p>別紙様式 2-5-4 FDの内容・方法及び実施状況一覧</p>
<p>分析項目 2-5-5</p> <p>教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、それらの者が適切に活用されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務関係等事務組織図及び事務職員の事務分掌、配置状況が確認できる資料 ・教育活動に関わる技術職員、図書館専門職員等の配置状況が確認できる資料 <p>根拠資料 2-5-5-1 事務局組織図（教務関係、図書館系）</p> <p>根拠資料 2-5-5-2 技術支援センター組織図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習、実験、実習又は実技を伴う授業を補助する助手等の配置やTA等の配置状況、活用状況が確認できる資料 <p>根拠資料 2-5-5-3 令和元年度シニア・テクニカル・アドバイザー採用計画</p>

	<p>根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書</p> <p>根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書</p> <p>根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書</p> <p>・教育支援者、教育補助者一覧（別紙様式2-5-5）</p> <p>別紙様式2-5-5 教育支援者、教育補助者一覧</p>
<p>分析項目2-5-6</p> <p>教育支援者、教育補助者が教育活動を展開するために必要な職員の担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施していること</p>	<p>・教育支援者等に対する研修等内容・方法及び実施状況一覧（別紙様式2-5-6）</p> <p>別紙様式2-5-6 教育支援者等に対する研修等内容・方法及び実施状況一覧</p> <p>・TA等の教育補助者に対してのマニュアルや研修等内容、実施状況が確認できる資料</p> <p>根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目2-5-1</p>	<p>「根拠資料2-5-1-3 高専・両技科大間教員交流制度実施要項」により、本学、国立高等専門学校（以下「高専」という。）及び豊橋技術科学大学の教員を、他の高専又は両技科大のいずれかへ一定期間派遣し、教育研究活動に従事させることにより、教員の力量を高める取組を行っている。この教員交流の資格審査は、本学の教員採用と同じ審査で厳格に行っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組2-5-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p>■ 当該基準を満たす</p> <p>□ 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <p>・ 該当なし</p>	
<p>改善を要する事項</p> <p>・ 該当なし</p>	

II 基準ごとの自己評価

領域3 財務運営、管理運営及び情報の公表に関する基準

基準3-1 財務運営が大学等の目的に照らして適切であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目3-1-1 毎年度、財務諸表等について法令等に基づき必要な手続きを経ていること	<ul style="list-style-type: none"> 直近年度の財務諸表 根拠資料3-1-1-1 平成30事業年度財務諸表 上記財務諸表に係る監事、会計監査人の監査報告書 根拠資料3-1-1-2 長岡技術科学大学平成30年度監査報告書（監事） 根拠資料3-1-1-3 長岡技術科学大学平成30年度監査報告書（会計監査人）
分析項目3-1-2 教育研究活動に必要な予算を配分し、経費を執行していること	<ul style="list-style-type: none"> 予算・決算の状況（過去5年間分）がわかる資料（別紙様式3-1-2） 別紙様式3-1-2 予算・決算の状況（過去5年分） 分析の手順に示された理由がある場合に、その理由を記載した書類 根拠資料3-1-2-1 乖離理由書
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目3-1-2	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料とともに箇条書き</u> で記述すること。	
活動取組3-1-A	<p>様々な視点（健全性・安全性、活動性、発展性、収益性、効率性）による新たな財務指標についてデータ集積を行うとともに、平成28年度財務諸表ベースで一般管理費を分解し、経費削減可能な科目を分類し、管理費抑制の精査・分析を行った。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-1-A-1 財務分析</p> <p>根拠資料3-1-A-2 一般管理費率分析</p> <p>根拠資料3-1-A-3 一般管理費分解</p>
活動取組3-1-B	<p>学長戦略経費を活用し、以下のとおり、平成29年度までに研究力強化による科学研究費補助金事業の採択額増加、業務運営の改善による財政基盤の強化等が達成できた。</p> <p>研究力強化については、本学の強みを生かした研究拠点構築や基礎的・萌芽的研究への研究費支援により、未来技術科学創造教育研究機構（機能強化組織）とマッチングした重点領域での研究体制が整備（3研究領域6テーマ）されるとともに、平成30年度科学研究費補助金事業における採択額が415,400千円となり、前年度比で27,645千円を増額できた。</p>

	<p>とりわけ、重点領域の参画者の中から基盤研究（A）については、獲得者が6名（前年度は3名）となり、全員が重点領域参画者であった。そのうち若手教授4名が含まれており、科研費の大型化や新しい強みの分野の開拓が推進された。一方で、平成25年度から29年度の科学研究費補助金事業の新規採択件数の細目別の累計で、計7分野で全国上位10機関にランクインしており、本学が強みとして重点領域で拠点構築した「グリーンテクノロジー」、「材料科学」、「制御システム」関連技術が国内優位であることも実証された。</p> <p>このほか、企業との共同研究件数が平成29年度203件（平成28年度152件、平成27年度131件）、海外研究機関との共著論文数が平成29年113件（平成28年121件、平成27年97件）と研究力を測る数値が向上した。</p> <p>業務運営の改善については、IR機能と連動した業務運営改善への支援により、企業合同説明会の運営方法を見直し、約24,000千円の純収入増となったほか、基金・卒業生室を設置し、8月に大学基金を発足させ、ホームカミングデイの開催や卒業生を対象として校友会の整備を行い、平成29年度は7,331千円の寄附を受けた。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-1-B-1 管理経費と予算</p> <p>根拠資料3-1-B-2 平成29年度長岡技術科学大学予算編成について（案）</p>
<p>活動取組3-1-C</p>	<p>IRによる事業見直しの提言等に基づき、経費の圧縮を行い、平成29年度当初予算ベースで、全体予算に対する管理経費の割合が前年度の10.46%から10.38%に削減された。削減経費を活用し、物材2号棟改修関連経費や学術情報基盤整備等の新たな事業を実施した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-1-C-1 IR提言に基づく管理経費の削減</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>契約の見直し等により、以下のとおり、経費の削減を図った。</p> <p>具体的には、平成27年度において、個々の端末において行っていたマイクロソフトのライセンス契約を学内の端末を取りまとめて一括での契約に見直したことにより、年間で約600万円の節減効果が得られた。</p> <p>このほか、トイレトペーパー及び手洗い石鹸の一括契約、一部の事務用品についての㈱アスクルの大口顧客向け一括調達サービスの契約、公用車及び除雪車の自動車保険の複数年及び一括契約、職員一般定期健康診断・特殊健康診断の一括調達（単価契約）を行い、256万円の経費節減効果があった。</p> <p>平成28年度においては、長岡高専との職員一般定期健康診断・特殊健康診断の共同調達の実施及び情報入出力運用支援サービス（複合機等）の契約における仕様の見直し等により、前年度比580万円を節減した。【活動取組3-1-A】</p> <p>IRによる事業見直しの提言等に基づき、経費の圧縮を行い、平成29年度当初予算ベースで、全体予算に対する管理経費の割合が前年度の10.46%から10.38%に削減された。削減経費を活用し、物材2号棟改修関連経費や学術情報基盤整備等の新たな事業を実施した。【活動取組3-1-C】</p> 	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準3-2 管理運営のための体制が明確に規定され、機能していること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目3-2-1</p> <p>大学の管理運営のための組織が、適切な規模と機能を有していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理運営のための組織（法人の役員会、経営協議会、教育研究評議会等が、法人としての業務以外で大学の教育研究活動に係る運営において役割を有する場合は、それらを含む）の設置、構成等が確認できる資料（根拠となる規定を含む。） 根拠資料3-2-1-1 長岡技術科学大学組織図（平成31年度） 根拠資料3-2-1-2 長岡技術科学大学運営組織図（平成31年度） 根拠資料3-2-1-3 長岡技術科学大学組織通則 （再掲）根拠資料1-3-3-1 長岡技術科学大学教育研究評議会規則 ・ 大学の学長と大学を設置する法人の長が異なる場合は、責任の内容と所在が確認できる資料 ・ 役職者の名簿 （再掲）根拠資料1-3-1-3 平成31年度理事、副学長、専攻長等、附属図書館長、学内共同教育研究施設長等一覧
<p>分析項目3-2-2</p> <p>法令遵守に係る取組及び危機管理に係る取組のための体制が整備されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令遵守事項一覧（別紙様式3-2-2） ・ 危機管理体制等一覧（別紙様式3-2-2） 別紙様式3-2-2 法令遵守事項一覧、危機管理体制等一覧 根拠資料3-2-2-1 長岡技術科学大学情報公開取扱規程 根拠資料3-2-2-2 長岡技術科学大学個人情報保護規則 根拠資料3-2-2-3 長岡技術科学大学公益通報者保護規程 根拠資料3-2-2-4 長岡技術科学大学ハラスメント防止等規則 根拠資料3-2-2-5 長岡技術科学大学安全保障輸出管理規程 根拠資料3-2-2-6 長岡技術科学大学生命倫理委員会規程 根拠資料3-2-2-7 長岡技術科学大学ヒトを対象とする研究規程 根拠資料3-2-2-8 長岡技術科学大学動物実験委員会規程 根拠資料3-2-2-9 長岡技術科学大学遺伝子組換え実験安全管理規則 根拠資料3-2-2-10 長岡技術科学大学動物実験取扱規程

	<p>根拠資料3-2-2-11 長岡技術科学大学防火・防災管理規程</p> <p>根拠資料3-2-2-12 長岡技術科学大学における危機管理に関する規則</p> <p>根拠資料3-2-2-13 長岡技術科学大学情報倫理規程</p> <p>根拠資料3-2-2-14 長岡技術科学大学情報セキュリティ管理基本方針</p> <p>根拠資料3-2-2-15 長岡技術科学大学情報セキュリティ管理基本規程</p> <p>根拠資料3-2-2-16 長岡技術科学大学情報セキュリティ管理運用の取扱い（非公表）</p> <p>根拠資料3-2-2-17 長岡技術科学大学情報化統括責任者規程</p> <p>根拠資料3-2-2-18 長岡技術科学大学情報セキュリティ専門部会設置要項</p> <p>根拠資料3-2-2-19 長岡技術科学大学情報セキュリティ緊急対応体制図（非公表）</p> <p>根拠資料3-2-2-20 長岡技術科学大学における研究活動に係る不正行為に関する規則</p> <p>根拠資料3-2-2-21 長岡技術科学大学研究費不正使用防止規則</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-3-3 長岡技術科学大学情報統合管理会議規則</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目3-2-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組3-2-A</p>	<p>IRによる事業見直しの提言等に基づき、経費の圧縮を行い、平成29年度当初予算ベースで、全体予算に対する管理経費の割合が前年度の10.46%から10.38%に削減された。削減経費を活用し、物材2号棟改修関連経費や学術情報基盤整備等の新たな事業を実施した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-2-A-1 長岡技術科学大学研究戦略本部規則</p> <p>根拠資料3-2-A-2 長岡技術科学大学教育戦略本部規則</p> <p>（再掲）根拠資料2-3-2-1 長岡技術科学大学IR推進室規則</p>
<p>活動取組3-2-B</p>	<p>平成27年度に学内の委員会を総点検し、145委員会を101に再編及び委員会構成員の見直しを行い、委員削減による業務改善につなげた。また、会議時間を1時間30分以内とし、午後5時以降に及び会議は行わないなど勤務時間の改善も行っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-2-B-1 会議時間調査</p> <p>根拠資料3-2-B-2 学内委員会等の見直しについて</p>

活動取組3-2-C	<p>教育組織と同じ9つの「系」で構成していた教員組織を改編し、平成27年度4月から「技学研究院」及び「技術経営研究院」の2つの「院」に再編したことで、異分野融合による研究活性化の基礎を整備した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-2-C-1 ガバナンス強化・教員組織改革</p>
活動取組3-2-D	<p>安全保障輸出管理制度研修会、研究費不正使用防止等に関する説明会、ソフトウェアの不正利用に関する説明会、論文剽窃チェックツールの説明会、ハラスメントに関する研修会、個人情報保護研修、公文書管理研修等法令遵守に向けた取組みを実施した。なお、上記の取組みは、コンプライアンス室において、年度当初に取組計画として取りまとめ、その進捗状況を確認し、コンプライアンスの推進、不正事案の防止等に取り組んでいる。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-2-D-1 法令遵守取組一覧</p> <p>根拠資料3-2-D-2 各種説明会の実施概要</p> <p>(再掲) 根拠資料3-2-2-20 長岡技術科学大学における研究活動に係る不正行為に関する規則</p>
活動取組3-2-E	<p>「個人情報の保護に関する手引」を作成して全教職員に配付して情報漏洩を未然に防止する対応を行うとともに、インシデント対応訓練及び標的型メール訓練を適時実施し、不用意に受信した職員等へ具体的防御方法を指導した。また、英語、中国語及びベトナム語で情報セキュリティ強化広告を作成し、留学生ガイダンスで配付した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-2-E-1 個人情報保護に関する手引き</p> <p>根拠資料3-2-E-2 インシデント対応訓練実施要項</p> <p>根拠資料3-2-E-3 情報セキュリティ対応 [HP 抜粋]</p> <p>根拠資料3-2-E-4 情報セキュリティ強化ポスター (日本語・英語)</p> <p>根拠資料3-2-E-5 情報セキュリティ強化広告 (中国語・ベトナム語)</p> <p>根拠資料3-2-E-6 留学生向け学内LAN注意事項</p>
活動取組3-2-F	<p>学外に公開しているセキュアードサーバー40台を対象に、外部機関によるセキュリティの脆弱性監査を行い、指摘された問題点解決のため、サーバー管理者が是正計画を作成・対応し、リスク管理を推進している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料2-3-4-1 情報システム機器群に対する脆弱性検査結果報告書 (非公表)</p> <p>(再掲) 根拠資料2-3-4-2 情報システム機器群に対する脆弱性検査後の対応状況一覧 (非公表)</p>
活動取組3-2-G	<p>スマートフォン、携帯電話等を活用した安否情報システムを全学生及び教職員に導入した。震度5強以上の地震が発生した際に自動配信される安否確認メールや地震以外の災害時等において大学から手動で配信する安否確認メールに回答することで、自身の安否報告が可能となった。防災訓練時(平成30年10月実施)に、システムの試験稼働を兼ね、全教職</p>

	<p>員、学生を対象として安否情報システムを利用した安否報告訓練を行い、安否状況の把握、回答率等を確認した。また、緊急事態が発生した際、教職員が共通の認識で迅速な対応がとれるよう「緊急時の初動対応マニュアル【携帯用】」を作成し、全教職員に配付した。なお、平成31年3月末までに学生向けの「緊急時の初動対応マニュアル【携帯用】」を作成し、配付を行う。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-2-G-1 安否情報システム概要</p> <p>根拠資料3-2-G-2 安否報告訓練結果</p> <p>根拠資料3-2-G-3 緊急時の初動対応マニュアル【携帯用】</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度に学内の委員会を総点検し、145委員会を101に再編及び委員会構成員の見直しを行い、委員削減による業務改善につなげた。また、会議時間を1時間30分以内とし、午後5時以降に及ぶ会議は行わないなど勤務時間の改善も行っている。【活動取組3-2-B】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

<p>基準3-3 管理運営を円滑に行うための事務組織が、適切な規模と機能を有していること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目3-3-1</p> <p>管理運営を円滑に行うための事務組織が、適切な規模と機能を有していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 根拠となる規定類 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料3-3-1-1 長岡技術科学大学事務組織規程 根拠資料3-3-1-2 長岡技術科学大学技術支援センター規則 根拠資料3-3-1-3 長岡技術科学大学国際技術共同教育研究推進室規程 事務組織の組織図 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料3-3-1-4 事務組織図 (再掲) 根拠資料2-5-5-2 技術支援センター組織図 事務組織一覧(部署ごとの人数(分析項目2-5-6教育支援者を含む。))(別紙様式3-3-1) <ul style="list-style-type: none"> 別紙様式3-3-1 事務組織一覧

【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目3-3-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組3-3-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準3-4 教員と事務職員等との役割分担が適切であり、これらの者の間の連携体制が確保され、能力を向上させる取組が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目3-4-1 教員と事務職員等とが適切な役割分担のもと、必要な連携体制を確保していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教職協働の状況（別紙様式3-4-1） 別紙様式3-4-1 教職協働の状況 根拠資料3-4-1-1 長岡技術科学大学実務訓練委員会規則 根拠資料3-4-1-2 長岡技術科学大学学長プロジェクト企画室規則 根拠資料3-4-1-3 長岡技術科学大学広報委員会規則 根拠資料3-4-1-4 長岡技術科学大学国際連携センター規則 根拠資料3-4-1-5 長岡技術科学大学安全衛生管理委員会規程 根拠資料3-4-1-6 長岡技術科学大学男女共同参画推進室規則 根拠資料3-4-1-7 長岡技術科学大学情報公開・個人情報保護委員会規程 根拠資料3-4-1-8 長岡技術科学大学防火・防災対策委員会専攻部会要項 根拠資料3-4-1-9 長岡技術科学大学知的財産委員会規程

	<p>根拠資料 3-4-1-10 長岡技術科学大学基盤経費等予算検討会議要項</p> <p>根拠資料 3-4-1-11 長岡技術科学大学利益相反委員会規程</p> <p>根拠資料 3-4-1-12 長岡技術科学大学役員副学長会議規則</p> <p>根拠資料 3-4-1-13 長岡技術科学大学大学戦略会議要項</p> <p>根拠資料 3-4-1-14 長岡技術科学大学人事委員会規則</p> <p>根拠資料 3-4-1-15 長岡技術科学大学遺伝子組換え実験安全委員会規則</p> <p>根拠資料 3-4-1-16 長岡技術科学大学障がい学生支援室規程</p> <p>根拠資料 3-4-1-17 平成 31 年度学内委員会等一覧</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-3-1 長岡技術科学大学教育研究評議会規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-1-1-2 長岡技術科学大学大学評価委員会規程</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-1-3-1 長岡技術科学大学施設環境委員会規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-1-3-2 長岡技術科学大学附属図書館運営委員会規程</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-1-3-3 長岡技術科学大学情報統合管理会議規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-1-3-4 長岡技術科学大学学生委員会規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-1-3-5 長岡技術科学大学就職委員会規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-1-3-6 長岡技術科学大学国際交流委員会規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-4-1-1 長岡技術科学大学将来計画委員会規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-5-2-1 長岡技術科学大学教員データベース管理運営委員会規程 (非公表)</p> <p>(再掲) 根拠資料 3-2-2-4 長岡技術科学大学ハラスメント防止等規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 3-2-2-12 長岡技術科学大学における危機管理に関する規則</p> <p>(再掲) 根拠資料 3-2-2-18 長岡技術科学大学情報セキュリティ専門部会設置要項</p> <p>(再掲) 根拠資料 3-2-2-21 長岡技術科学大学研究費不正使用防止規則</p>
<p>分析項目 3-4-2</p> <p>管理運営に従事する教職員の能力の質の向上に寄与するため、スタッフ・ディベロップメント (SD) を実施していること</p>	<p>・SDの内容・方法及び実施状況一覧 (別紙様式 3-4-2)</p> <p>別紙様式 3-4-2 SDの内容・方法及び実施状況一覧</p>

【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目3-4-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組3-4-A	<p>学長と女性教職員との懇談会を開催し、女性教職員の働く上での支援やキャリア等について意見交換を行った。意見の中から男女共同参画室の設置（平成30年6月）、「子の看護休暇」の対象年齢を小学4年生までに拡大（平成30年9月）等を実施し、体制の強化、子育て支援を図り、仕事と家庭が両立できる働きやすい環境づくりを推進した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-4-A-1 学長と女性教職員との懇談会 意見・回答</p>
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準3-5 財務及び管理運営に関する内部統制及び監査の体制が機能していること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目3-5-1 監事が適切な役割を果たしていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 監事に関する規定 根拠資料3-5-1-1 長岡技術科学大学監事監査規程 ・ 監事による監査の実施状況を確認できる資料（直近年度の監事監査計画書、監事監査報告書、監事による意見書等） 根拠資料3-5-1-2 平成30年度国立大学法人長岡技術科学大学監事監査計画（非公表） 根拠資料3-5-1-3 平成30年度前期業務監査調書（抜粋）並びに業務監査意見書（非公表） 根拠資料3-5-1-4 平成30年度後期業務監査調書（抜粋）並びに業務監査意見書（非公表） 根拠資料3-5-1-5 監事報告書第1四半期（平成30年8月28日実施分）（非公表） 根拠資料3-5-1-6 重点監査監事報告書（平成30年7月、10月、11月実施分）（非公表）

	<p>根拠資料3-5-1-7 監事報告書第2四半期（平成30年11月26日実施分）（非公表）</p> <p>根拠資料3-5-1-8 監事報告書第3四半期（平成31年2月27日実施分）（非公表）</p> <p>（再掲）根拠資料3-1-1-2 長岡技術科学大学平成30年度監査報告書（監事）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監事が置かれていない場合は、直近年度の地方自治体における監査委員等の監査結果
<p>分析項目3-5-2</p> <p>法令の定めに従って、会計監査人による監査が実施されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会計監査人の監査の内容・方法が確認できる資料（直近年度の監査計画書等） <p>根拠資料3-5-2-1 平成30年度会計監査人の監査計画（非公表）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表等の監査の実施状況を確認できる資料（直近年度の会計監査人による監査報告書等） <p>根拠資料3-5-2-2 長岡技術科学大学平成30年度監査報告書（会計監査人）（非公表）</p>
<p>分析項目3-5-3</p> <p>独立性が担保された主体により内部監査を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・組織図又は関係規定（独立性が担保された主体であることが確認できるもの） <p>根拠資料3-5-3-1 長岡技術科学大学監査室設置要項</p> <p>根拠資料3-5-3-2 長岡技術科学大学内部統制システムの運用に関する規程</p> <p>根拠資料3-5-3-3 長岡技術科学大学業務方法書</p> <p>（再掲）根拠資料3-2-1-1 長岡技術科学大学組織図（平成31年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部監査に関する規定 <p>根拠資料3-5-3-4 長岡技術科学大学内部監査実施要項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監査の実施状況等が確認できる資料（直近年度の内部監査報告書等） <p>根拠資料3-5-3-5 平成30年度内部監査（会計監査：臨時監査）報告書（非公表）</p> <p>根拠資料3-5-3-6 平成30年度内部監査（会計監査：科学研究費助成事業等）報告書（非公表）</p> <p>根拠資料3-5-3-7 平成30年度内部監査（定期監査：会計）報告書（非公表）</p> <p>根拠資料3-5-3-8 平成30年度内部監査（定期監査：業務）報告書（非公表）</p>
<p>分析項目3-5-4</p> <p>監事を含む各種の監査主体と大学の管理運営主体との間で、情報共有を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・監事による監査とそれ以外の内部監査、会計監査人監査の連携の状況について確認する。 <p>根拠資料3-5-4-1 平成30年度四者協議会議事メモ（非公表）</p> <p>根拠資料3-5-4-2 平成30年度学長とのディスカッション議事メモ（非公表）</p> <p>根拠資料3-5-4-3 平成30年度監事とのディスカッション議事メモ（非公表）</p> <p>根拠資料3-5-4-4 平成30年度財務担当理事とのディスカッション議事メモ（非公表）</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	

分析項目3-5-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料</u> とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組3-5-A	<p>平成18年8月から学内組織として監査室を設置し、以前より実施してきた会計の監査に加え、業務の監査を実施することで、本学の業務の適正かつ効果的な執行に資する体制を整備した。監査機能の強化を図るため、平成29年4月から監査室を事務局から独立した組織に変更し、学長の指示の下で業務及び会計に関する内部監査の企画・実施とともに、監事による監査及び会計監査人による監査との連携を図っている。いずれの監査も関係規程に基づく監査計画に則り適切に行っている。また、会計監査人と連携し、内部統制やビジネススキルを中心に研修会を計画し実施している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料3-5-A-1 組織図</p> <p>根拠資料3-5-A-2 監査法人による研修</p> <p>(再掲) 根拠資料3-5-3-1 長岡技術科学大学監査室設置要項</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準3-6 大学の教育研究活動等に関する情報の公表が適切であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目3-6-1</p> <p>法令等が公表を求める事項を公表していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令が定める教育研究活動等についての情報の公表状況一覧(別紙様式3-6-1) <p>別紙様式3-6-1 法令が定める教育研究活動等についての情報の公表状況一覧</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目3-6-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料</u> とともに箇条書きで記述すること。	

活動取組 3-6-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす	
<input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

II 基準ごとの自己評価

領域4 施設及び設備並びに学生支援に関する基準

基準4-1 教育研究組織及び教育課程に対応した施設及び設備が整備され、有効に活用されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目4-1-1</p> <p>教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備を法令に基づき整備していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認証評価共通基礎データ様式 (再掲) 認証評価共通基礎データ様式 ・ 夜間の授業又は2以上のキャンパスでの教育の実施状況一覧 (別紙様式4-1-1) 別紙様式4-1-1 夜間の授業又は2以上のキャンパスでの教育の実施状況一覧 (該当なし) 根拠資料4-1-1-1 システム安全専攻 平成30年度 授業日程 根拠資料4-1-1-2 長岡技術科学大学東京サテライトキャンパスについて (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P124 (授業の方法)
<p>分析項目4-1-2</p> <p>法令が定める実習施設等が設置されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 附属施設等一覧 (別紙様式4-1-2) 別紙様式4-1-2 附属施設等一覧
<p>分析項目4-1-3</p> <p>施設・設備における安全性について、配慮していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設・設備の整備 (耐震化、バリアフリー化等) 状況 (面積、収容者数)、利用状況等が確認できる資料 根拠資料4-1-3-1 長岡技術科学大学キャンパスマスタープラン 根拠資料4-1-3-2 国立大学法人等施設の耐震化の状況 (平成30年5月1日現在) ・ 安全・防犯面への配慮がなされていることが確認できる資料 根拠資料4-1-3-3 総合訓練の実施状況 根拠資料4-1-3-4 防犯カメラ設置一覧 (非公表) (再掲) 根拠資料2-3-3-1 学生がゼロから作った学内ハザードマップ (再掲) 根拠資料3-2-2-11 長岡技術科学大学防火・防災管理規程
<p>分析項目4-1-4</p> <p>教育研究活動を展開する上で必要なICT環境を整備し、それが有効に活用されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術情報基盤実態調査 (コンピュータ及びネットワーク編) 根拠資料4-1-4-1 平成30年度学術情報基盤実態調査 (コンピュータ及びネットワーク編)
<p>分析項目4-1-5</p> <p>大学組織の一部としての図書館において、教育研究上必要な資料を利用可能な状態に整備し、有効に活用されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学術情報基盤実態調査 (大学図書館編) 根拠資料4-1-5-1 平成30年度学術情報基盤実態調査 (大学図書館編)

<p>分析項目4-1-6</p> <p>自習室、グループ討議室、情報機器室、教室・教育設備等の授業時間外使用等による自主的学習環境が十分に整備され、効果的に利用されていること</p>	<p>・自主的学習環境整備状況一覧（別紙様式4-1-6）</p> <p>別紙様式4-1-6 自主的学習環境整備状況一覧</p> <p>根拠資料4-1-6-1 長岡技術科学大学附属図書館利用案内</p> <p>根拠資料4-1-6-2 学生自習用パソコン室見学資料</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目4-1-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組4-1-A</p>	<p>防火・防災訓練を、全教職員及び学生参加のもとで毎年実施している。長岡市消防本部に協力頂き、トリアージ講習、消火訓練を合わせて行った。アンケートで意見のあった、緊急放送が聞き取りにくい構内の放送設備の改修と、緊急放送内容を日英併用とすることで、確実に情報伝達できるよう改善した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料4-1-A-1 自衛消防隊救護班個別訓練の実施について</p> <p>根拠資料4-1-A-2 平成30年度防災訓練について</p> <p>根拠資料4-1-A-3 平成30年度防災訓練アンケート結果</p> <p>根拠資料4-1-A-4 放送設備改修</p> <p>根拠資料4-1-A-5 緊急放送内容</p>
<p>活動取組4-1-B</p>	<p>災害時の初動対応、緊急連絡先、構内避難場所等を記載した「地震・火災時の手引き-危険回避の方法-」（A4を1/10程度に折畳んだもの）を日本語版、英語版別に作成して、全学生及び教職員に配付した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料4-1-B-1 地震・火災時の手引き-危機回避の方法-</p>
<p>活動取組4-1-C</p>	<p>学生が学生目線で、夜間段差で歩行がしにくい箇所、視界が悪く自動車事故が起こりそうな場所等、構内の各所を点検し「学内ハザードマップ」を作成した。日本語版及び英語版を作成して全学生に配付、各所に掲示した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>（再掲）根拠資料2-3-3-1 学生がゼロから作った学内ハザードマップ</p>
<p>活動取組4-1-E</p>	<p>国立高等専門学校51校55キャンパスにおける図書館のサービスを向上させるため、平成24年度から、各高等専門学校で独自に運用していた図書館資料の業務用管理サーバーを本学に集約して長岡技術科学大学・高等専門学校図書館システムの運用を開始した。毎年、本学主催の利用講習会を開催し、管理者の技術向上と連携を強化している。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料4-1-E-1 附属図書館概要</p> <p>根拠資料4-1-E-2 図書館高専連携 [HP 抜粋]</p>
<p>活動取組4-1-F</p>	<p>キャンパスマスタープランに基づき、平成27年度には耐震改修、機能改善を実施した。二重サッシ化、エコタイプエアコンへの取替えにより省エネにも配慮した。また、講義棟等の耐震補強工事に伴い、アクティブラーニングルーム3室の設置、女子及び多目的トイレの増設・改修工事を行った。平成28年度以降、スロープ、車椅子用エレベーター、多目的トイレ、障がい者用駐車スペース、自動ドアを設置した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料4-1-3-1 長岡技術科学大学キャンパスマスタープラン</p>
<p>活動取組4-1-G</p>	<p>安全衛生確保のため、セーフティー・データ・シート(w-SDS)を作成し、研究室で作業手順や機械・設備等の操作、危険性について認識させ、管理体制の充実を図り、安全衛生管理が模範的な研究室を表彰するなど安全意識の向上を図った。また、学長、理事等による学内の安全パトロール、学内巡視を継続的に行い、安全意識の向上を図っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料4-1-G-1 セーフティーデータシート実施手順書</p> <p>根拠資料4-1-G-2 学長の安全パトロールの実施について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 国立高等専門学校51校55キャンパスにおける図書館のサービスを向上させるため、平成24年度から、各高等専門学校で独自に運用していた図書館資料の業務用管理サーバーを本学に集約して長岡技術科学大学・高等専門学校図書館システムの運用を開始した。毎年、本学主催の利用講習会を開催し、管理者の技術向上と連携を強化している。【活動取組4-1-E】 防火・防災訓練を、全教職員及び学生参加のもとで毎年実施している。長岡市消防本部に協力頂き、トリアージ講習、消火訓練を合わせて行った。アンケートで意見のあった、緊急放送が聞き取りにくい構内の放送設備の改修と、緊急放送内容を日英併用とすることで、確実に情報伝達できるよう改善した。 <p>また、災害時の初動対応、緊急連絡先、構内避難場所等を記載した「地震・火災時の手引き-危険回避の方法-」(A4を1/10程度に折畳んだもの)を日本語版、英語版別に作成して、全学生及び教職員に配付し、学生が学生目線で、夜間段差で歩行がしにくい箇所、視界が悪く自動車事故が起こりそうな場所等、構内の各所を点検し「学内ハザードマップ」を作成して、日本語版及び英語版で作成して全学生に配付、各所に掲示した。【活動取組4-1-A、4-1-B、4-1-C】</p>	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準4-2 学生に対して、生活や進路、課外活動、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目4-2-1</p> <p>学生の生活、健康、就職等進路に関する相談・助言体制及び各種ハラスメント等に関する相談・助言体制を整備していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談・助言体制等一覧（別紙様式4-2-1） 別紙様式4-2-1 相談・助言体制等一覧 ・保健（管理）センター、学生相談室、就職支援室等を設置している場合は、その概要や相談・助言体制（相談員、カウンセラーの配置等）が確認できる資料 根拠資料4-2-1-1 長岡技術科学大学事務分掌規程 ※第9条（学生支援課） 根拠資料4-2-1-2 就職・進路に係る支援・相談の体制 （再掲）根拠資料3-3-1-1 長岡技術科学大学事務組織規程 ※第13条（学生支援課の所掌事務） ・各種ハラスメント等の相談体制や対策方法が確認できる資料（取扱要項等） 根拠資料4-2-1-3 長岡技術科学大学ハラスメント防止に関するガイドライン 根拠資料4-2-1-4 ハラスメントの防止等に関する組織及び手続等の流れ （再掲）根拠資料3-2-2-4 長岡技術科学大学ハラスメント防止等規則 ・生活支援制度の学生への周知方法（刊行物、プリント、掲示等）が確認できる資料 根拠資料4-2-1-5 学生生活ガイドブック2019 ・生活支援制度の利用実績が確認できる資料 根拠資料4-2-1-6 ハローワーク長岡による進路・就職出張相談（平成30年度） （再掲）根拠資料2-2-4-8 平成30年度第1回就職委員会議事概要 （再掲）根拠資料2-2-4-9 平成30年度第1回就職委員会 資料1-1 平成30年度就職支援事業実施計画一覧 (案) ※6. 進路・就職出張相談（ハローワーク長岡より大学へ講師派遣）
<p>分析項目4-2-2</p> <p>学生の部活動や自治会活動等の課外活動が円滑に行われるよう、必要な支援を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動に係る支援状況一覧（別紙様式4-2-2） 別紙様式4-2-2 課外活動に係る支援状況一覧
<p>分析項目4-2-3</p> <p>留学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する生活支援の状況が確認できる資料（実施体制、実施方法、実施状況等） 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） ・留学生に対する外国語による情報提供（健康相談、生活相談等）を行っている場合は、その資料

	<p>根拠資料 4-2-3-2 留学生のためのガイドブック 2018</p>
<p>分析項目 4-2-4 障害のある学生その他特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への生活支援等を行う体制を整備し、必要に応じて生活支援等を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害のある学生等に対する生活支援の状況が確認できる資料（実施体制、実施方法等） 根拠資料 4-2-4-1 長岡技術科学大学における障がい理由とする差別の解消の推進に関する規則 根拠資料 4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック（平成 31 年 3 月） (再掲) 根拠資料 3-4-1-16 長岡技術科学大学障がい学生支援室規程
<p>分析項目 4-2-5 学生に対する経済面での援助を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的支援の整備状況、利用実績一覧（別紙様式 4-2-5） 別紙様式 4-2-5 経済的支援の整備状況、利用実績一覧 ・ 奨学金制度の整備状況と当該窓口の周知が確認できる資料 根拠資料 4-2-5-1 長岡技術科学大学学部奨学生推薦選考基準 根拠資料 4-2-5-2 長岡技術科学大学大学院奨学生推薦選考基準 根拠資料 4-2-5-3 奨学金制度について（Web サイト抜粋） 根拠資料 4-2-5-4 在学生向け情報（学費免除・奨学金関係）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 72 条（表彰） ・ 日本学生支援機構奨学金等の利用実績が確認できる資料 根拠資料 4-2-5-5 日本学生支援機構・各種奨学団体奨学金受給者数 ・ 大学独自の奨学金制度等を有している場合は、その制度や利用実績が確認できる資料 根拠資料 4-2-5-6 長岡技術科学大学基金規則 根拠資料 4-2-5-7 長岡技術科学大学修学支援基金規程 根拠資料 4-2-5-8 長岡技術科学大学教育研究支援基金規程 根拠資料 4-2-5-9 長岡技術科学大学基金奨学金給付要項 根拠資料 4-2-5-10 大学基金奨学金 給付状況 根拠資料 4-2-5-11 長岡技術科学大学 VOS 特待生に係る入学料及び授業料の取扱いに関する規程 根拠資料 4-2-5-12 長岡技術科学大学 VOS 特待生に係る入学料及び授業料の取扱いに関する規程第 2 条第 3 号及び第 4 号に係る推薦方法等に関する申合せ 根拠資料 4-2-5-13 長岡技術科学大学 VOS 特待生等に係る入学料及び授業料の取扱いに関する申合せ 根拠資料 4-2-5-14 VOS・スーパーVOS 特待生在学者数 ・ 入学料、授業料免除等を実施している場合は、その基準や実施状況が確認できる資料

	<p>根拠資料 4-2-5-15 長岡技術科学大学入学料、授業料及び寄宿料の免除等に関する規程</p> <p>根拠資料 4-2-5-16 長岡技術科学大学入学料の免除及び徴収猶予選考基準</p> <p>根拠資料 4-2-5-17 長岡技術科学大学授業料免除選考基準</p> <p>根拠資料 4-2-5-18 入学料免除者数</p> <p>根拠資料 4-2-5-19 授業料免除者数</p> <p>・学生寄宿舎を設置している場合は、その利用状況（料金体系を含む。）が確認できる資料</p> <p>根拠資料 4-2-5-20 長岡技術科学大学学生宿舎等規則</p> <p>根拠資料 4-2-5-21 長岡技術科学大学学生宿舎等規則実施細則</p> <p>・上記のほか、経済面の援助の利用実績が確認できる資料</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を 400 字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目 4-2-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組 4-2-A</p>	<p>本学では、就職活動を行う学生に対して毎年、就職ガイダンスやセミナー等を開催し支援を行っている。また、各専攻に就職担当教員及び就職事務室を置き企業との面談や学生への求人情報の発信、学生の進路の相談など、きめ細やかな就職支援を行っている。この他に毎年、学生の進路選択や就職活動に役立つ情報の提供を目的として学内合同企業説明会を開催している。多くの企業から合同企業説明会に参加したいとの要望に応え、平成 29 年度より企業数を増やし、最終的には 566 社（平成 28 年度 420 社、34.8%増）となった。合同企業説明会に参加した企業への採用率は平成 30 年度では 59.8%となり、平成 29 年度の採用率 52.4%と比べると 7.4%増加した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 4-2-A-1 平成 29 年度学内合同企業説明会</p> <p>根拠資料 4-2-A-2 学内合同企業説明会実施状況</p>
<p>活動取組 4-2-B</p>	<p>学生の就職活動上の疑問点や不安を解消するため、就職ガイダンスやセミナー等を実施するとともに、ハローワーク長岡と連携し学卒ジョブサポーターを招聘して進路・就職相談を実施している。さらに就職支援無料バスツアーを実施し就職対策を早期から行っている。また、本学の卒業及び修了生が就職した企業等に対して、就業状況調査を 3 年ごとに実施し、併せて離職とその要因等についても確認している。その回答の中の入社年度別離職率において、平成 27 年度に入社した本学学生の離職率は 8.1%であり、厚生労働省発表の「新規学校卒業就職者の在職期間別離職状況（大学卒）」から読み取れる全国学生の離職率 31.8%と比較して極めて低い。同様に平成 28 年度は本学 4.8%に対して全国 21.8%、平成 29 年度では本学 2.6%に対して全国 11.5%であり、同様の傾向となっている。このことは、本学の学生が希望する業界・業種に就いていると推測できるとともに、本学の 3 つのポリシーに共通の「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」に向けて、現場主義、実践教育を進めてきた成果として評価できる。</p> <p>【根拠資料】</p>

	<p>根拠資料4-2-B-1 就職関連情報 [HP 抜粋]</p> <p>根拠資料4-2-B-2 就職ガイダンス等就職支援事業</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-1-6 ハローワーク長岡による進路・就職出張相談 (平成30年度)</p> <p>(参照) 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果 (平成30年12月)</p>
活動取組4-2-C	<p>学生の健康相談と、心身的・精神的な悩みに対し、カウンセラー3名（臨床心理士）、非常勤学校医3名（内科医2名、精神科医1名）及び本学保健師1名が相談相手となり、指導助言を行っている。また、講義棟付近の一室に『学生なんでも相談窓口』を設置し、高等専門学校名誉教授、元小学校教員の2名が修学、進路、人間関係などの相談相手となっている。学習相談やハラスメント関連でも相談窓口を別途設けており、電話相談、メール相談にも応じている。これら相談窓口はホームページや学生全員に配付する「学生生活ガイドブック」や、「悩みがある、障がいがある学生のサポートブック」にも紹介している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料4-2-C-1 学生なんでも相談窓口実績</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-1-5 学生生活ガイドブック2019</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック (平成31年3月)</p>
活動取組4-2-D	<p>海外派遣学生の安全確保のため、危機管理サービス機関（OSSMA）と契約し、海外旅行保険が対応しない派遣学生の安否確認や現地弁護士の紹介等が行われるよう支援体制を整えた。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料4-2-D-1 OSSMA 学内説明資料</p>
活動取組4-2-E	<p>サークルが「団体活動継続願」（学生サークルの年度ごとの継続願）を学生支援課に提出する際、メンバーの自覚、行動、安全管理等をどのように行うかについてまとめた「安全・安心の手引き」を作成させ、提出させている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料4-2-E-1 安全・安心の手引き</p>
活動取組4-2-F	<p>留学生への生活支援として、①来日が初めての留学生に、一定期間、日本人学生が留学生の世話役を務めるチューター制度によるアパート契約、市役所手続き等の支援補助、②留学生が民間等のアパートに入居する際、大学が機関連帯保証人となる住居手続の支援、③短期留学生に学生宿舎の提供と布団のレンタルの斡旋を行っている。</p> <p>また、留学生の異文化交流支援としては、留学生を主対象とした、日本の文化・歴史・自然への理解を深める見学旅行やスキー研修の実施、短期留学生に日本の生活・文化に触れる機会を提供するため、ホームステイ先を一般市民から公募するなど日本を知ってもらう取組も行っている。</p> <p>ハード面でのサポートとしては、日本及び大学での生活、注意点等を日英併記で説明した「留学生のためのガイドブック」を留学生に配付するとともに、構内における案内表示、道路標識を日英併記に変更することや、官民が募集する奨学生募集の情報を英語及び日本語で掲示及びメールにより留学生に周知し、情報を確実に伝えるきめ細かな対応を行っている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 4-2-F-1 チューターの手引き</p> <p>根拠資料 4-2-F-2 寝具レンタル</p> <p>根拠資料 4-2-F-3 構内サイン日英併記</p> <p>根拠資料 4-2-F-4 奨学金募集案内</p> <p>根拠資料 4-2-F-5 ホストファミリー公募のご協力について</p> <p>根拠資料 4-2-F-6 スキー研修の参加者募集について</p> <p>根拠資料 4-2-F-7 石川見学旅行 参加者募集</p> <p>(再掲) 根拠資料 4-2-3-2 留学生のためのガイドブック 2018</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学では、就職活動を行う学生に対して毎年、就職ガイダンスやセミナー等を開催し支援を行っている。また、各専攻に就職担当教員及び就職事務室を置き企業との面談や学生への求人情報の発信、学生の進路の相談など、きめ細やかな就職支援を行っている。この他に毎年、学生の進路選択や就職活動に役立つ情報の提供を目的として学内合同企業説明会を開催している。多くの企業から合同企業説明会に参加したいとの要望に応え、平成 29 年度より企業数を増やし 566 社（平成 28 年度 420 社、34.8%増）とした。合同企業説明会に参加した企業への採用率は平成 30 年度では 59.8%となり、平成 29 年度の採用率 52.4%と比べると 7.4%増加した。【活動取組 4-2-A】 学生の就職活動上の疑問点や不安を解消するため、就職ガイダンスやセミナー等を実施するとともに、ハローワーク長岡と連携し学卒ジョブサポーターを招聘して進路・就職相談を実施している。さらに就職支援無料バスツアーを実施し就職対策を早期から行っている。また、本学の卒業及び修生が就職した企業等に対して、就業状況調査を 3 年ごとに実施し、併せて離職とその要因等についても確認している。その回答の中の入社年度別離職率において、平成 27 年度に入社した本学学生の離職率は 8.1%であり、厚生労働省発表の「新規学校卒業就職者の在職期間別離職状況（大学卒）」から読み取れる全国学生の離職率 31.8%と比較して極めて低い。同様に平成 28 年度は本学 4.8%に対して全国 21.8%、平成 29 年度では本学 2.6%に対して全国 11.5%であり、同様の傾向となっている。このことは、本学の学生が希望する業界・業種に就いていると推測できるとともに、本学の 3 つのポリシーに共通の「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」に向けて、現場主義、実践教育を進めてきた成果として評価できる。【活動取組 4-2-B】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域5 学生の受入に関する基準

基準5-1 学生受入方針が明確に定められていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目5-1-1 学生受入方針において、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」の双方を明示していること	<ul style="list-style-type: none"> 学生受入方針が確認できる資料 根拠資料5-1-1-1 入学者受入方針（工学部（1年次入学）） [Web サイト抜粋] 根拠資料5-1-1-2 入学者受入方針（工学部（3年次編入）） [Web サイト抜粋] 根拠資料5-1-1-3 入学者受入方針（工学研究科修士課程） [Web サイト抜粋] 根拠資料5-1-1-4 入学者受入方針（工学研究科5年一貫制博士課程） [Web サイト抜粋] 根拠資料5-1-1-5 入学者受入方針（工学研究科博士後期課程） [Web サイト抜粋] 根拠資料5-1-1-6 入学者受入方針（技術経営研究科専門職学位課程） [Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目5-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組5-1-A	学生募集要項にアドミッションポリシーを記載して、本学の受入れ方針を志願者に伝えるとともに、アドミッションポリシーに対する適性等を評価するため、「調査書（学部3年）」、「推薦書（学部1・3年）」、「志望調書（学部1・3年）」の様式を見直した。 【根拠資料】 根拠資料5-1-A-1 学部1年願書様式 根拠資料5-1-A-2 学部3年願書様式
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準5-2 学生の受入が適切に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目5-2-1</p> <p>学生受入方針に沿って、受入方法を採用しており、実施体制により公正に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入学者選抜の方法一覧（別紙様式5-2-1） 別紙様式5-2-1 入学者選抜の方法一覧 ・ 面接、実技試験等において評価の公正性を担保する組織的取組の状況を示す資料（面接要領等） ・ 入試委員会等の実施組織及び入学者選抜の実施体制が確認できる資料 ・ 入学者選抜の試験実施に係る実施要項、実施マニュアル等 根拠資料5-2-1-1 平成31年度第1学年入学者選抜評価要領（非公表） 根拠資料5-2-1-2 平成31年度第1学年入学者選抜試験監督要領【一般入試 前期日程】（非公表） 根拠資料5-2-1-3 平成31年度第1学年入学者選抜試験（推薦入試）実施要領 監督者用（非公表） 根拠資料5-2-1-4 平成31年度第1学年入学者選抜試験（推薦入試）実施要領 面接委員用（非公表） 根拠資料5-2-1-5 平成31年度第3学年入学者選抜評価要領（非公表） 根拠資料5-2-1-6 平成31年度第3学年入学者選抜試験実施要領 監督者用（非公表） 根拠資料5-2-1-7 平成31年度第3学年入学者選抜試験実施要領 面接委員用（非公表） 根拠資料5-2-1-8 平成31年度第3学年実施要領VOS特待生、スーパーVOS特待生推薦入試（外国人留学生）面接委員用（非公表） 根拠資料5-2-1-9 平成31年度第3学年学生募集要項[ハノイ工科大学ツィニング・プログラム入試]（非公表） 根拠資料5-2-1-10 平成31年度第3学年学生募集要項[ホーチミン市工科大学ツィニング・プログラム入試]（非公表） 根拠資料5-2-1-11 平成31年度第3学年学生募集要項[ダナン工科大学ツィニング・プログラム入試]（非公表） 根拠資料5-2-1-12 平成31年度第3学年学生募集要項[モンテレイ大学ツィニング・プログラム入試]（非公表） 根拠資料5-2-1-13 平成31年度第3学年学生募集要項[ヌエボレオン大学ツィニング・プログラム入試]（非公表） 根拠資料5-2-1-14 平成31年度第3学年学生募集要項[マレーシア・ツィニング・プログラム入試]（非公表） 根拠資料5-2-1-15 平成30年度第3学年学生募集要項〈9月入学〉[鄭州大学ツィニング・プログラム入試]（非公表） 根拠資料5-2-1-16 平成31年度第3学年学生募集要項[モンゴル科学技術大学ツィニング・プログラム入試]（非公表）

公表)

[根拠資料 5-2-1-17](#) 平成 31 年度第 3 学年ツイニング・プログラム (ハノイ工科大学) 入学者選抜評価等要領 (非公表)

[根拠資料 5-2-1-18](#) 平成 31 年度第 3 学年ツイニング・プログラム (ホーチミン市工科大学) 入学者選抜評価等要領 (非公表)

[根拠資料 5-2-1-19](#) 平成 31 年度第 3 学年ツイニング・プログラム (ダナン工科大学) 入学者選抜評価等要領 (非公表)

[根拠資料 5-2-1-20](#) 平成 31 年度第 3 学年ツイニング・プログラム (マレーシア、ヌエボレオン大学、モンテレイ大学) 入学者選抜評価等要領 (非公表)

[根拠資料 5-2-1-21](#) 平成 30 年度第 3 学年鄭州大学ツイニング・プログラム入学者選抜評価等要領 (非公表)

[根拠資料 5-2-1-22](#) 平成 31 年度第 3 学年ツイニング・プログラム (モンゴル科学技術大学) 入学者選抜評価等要領 (非公表)

[根拠資料 5-2-1-23](#) 平成 31 年度大学院工学研究科修士課程入学者選抜試験取扱要領等【平成 30 年度実施分】(非公表)

[根拠資料 5-2-1-24](#) 平成 31 年度大学院工学研究科博士後期課程入学者選抜試験取扱要領等【平成 30 年度実施分】(非公表)

[根拠資料 5-2-1-25](#) 平成 31 年度大学院工学研究科 5 年一貫制博士課程〔技術科学イノベーション専攻〕入学者選抜試験取扱要領等【平成 30 年度実施分】(非公表)

[根拠資料 5-2-1-26](#) 平成 31 年度大学院工学研究科修士課程 SDG プロフェッショナルコース学生募集要項【9 月入学】(非公表)

[根拠資料 5-2-1-27](#) 平成 31 年度大学院工学研究科博士後期課程 SDG プロフェッショナルコース学生募集要項【9 月入学】(非公表)

[根拠資料 5-2-1-28](#) 平成 31 年度大学院工学研究科修士課程大学院工学研究科博士後期課程 SDG プロフェッショナルコース入学者選抜試験取扱要領等 (非公表)

[根拠資料 5-2-1-29](#) 平成 30 年度大学院技術経営研究科専門職学位課程入学者選抜試験取扱要領等【平成 29 年度実施分】(非公表)

[根拠資料 5-2-1-30](#) 長岡技術科学大学入学試験委員会規則 (非公表)

	<p>・ 学士課程については、個別学力検査及び大学入試センター試験において課す教科・科目の変更等が入学志願者の準備に大きな影響を及ぼす場合に2年程度前に予告・公表されたもので直近のもの</p> <p>根拠資料5-2-1-31 平成33年度以降の長岡技術科学大学における入学者選抜について【予告】（非公表）</p> <p>根拠資料5-2-1-32 学部第3学年推薦入試特別選抜「高専・技大協働教育選抜（仮称）」の創設について【予告】（非公表）</p>
<p>分析項目5-2-2</p> <p>学生受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行っており、その結果を入学者選抜の改善に役立てていること</p>	<p>・ 学生の受入状況を検証する組織、方法が確認できる資料</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-3-7 長岡技術科学大学入学試験委員会規則</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-3-8 入学者選抜改革ワーキンググループ（平成31年度学内委員会等一覧抜粋）</p> <p>・ 学生の受入状況を検証し、入学者選抜の改善を反映させたことを示す具体的事例等</p> <p>根拠資料5-2-2-1 入試改革WG 入試見直しの方向性（案）（平成29年9月5日入学試験委員会資料）（非公表）</p> <p>根拠資料5-2-2-2 第3学年推薦入試における「高専・技大協働教育プログラム選抜（仮称）」の導入について（平成30年1月17日入学試験委員会資料）（非公表）</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目5-2-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組5-2-A</p>	<p>転記による入力ミスをなくし、志願者がいつでも出願書類を作成したり検定料の払込みができるよう、Web出願システムを平成30年度に導入し、志願者の利便性を高めるとともに入試事務の効率化を図った。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料5-2-A-1 インターネット出願HP [HP抜粋]</p>
<p>活動取組5-2-B</p>	<p>入学試験対応のリスク管理において、「学部入学者選抜における入試ミス等防止対策マニュアル」を策定し、入学者選抜における責任体制を明確にするとともに、複数人で複数回確認することを徹底することにより入試ミスを予防するための手引きとした。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料5-2-B-1 入試ミス防止マニュアル</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 転記による入力ミスをなくし、志願者がいつでも出願書類を作成したり検定料の払込みができるよう、Web 出願システムを平成 30 年度に導入し、志願者の利便性を高めるとともに入試事務の効率化を図った。 また、入学試験対応のリスク管理において、「学部入学者選抜における入試ミス等防止対策マニュアル」を策定し、入学者選抜における責任体制を明確にするとともに、複数人で複数回確認することを徹底することにより入試ミスを予防するための手引きとした。【活動取組 5-2-A、5-2-B】
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし

基準 5-3 実入学者数が入学定員に対して適正な数となっていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目 5-3-1</p> <p>実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認証評価共通基礎データ様式【大学用】様式 2 (再掲) 認証評価共通基礎データ様式 ・ 実入学者数が「入学定員を大幅に超える」、又は「大幅に下回る」状況になっている場合は、その適正化を図る取組が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を 400 字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目 5-3-1</p>	<p>博士後期課程の入学定員充足率については、入学定員が少ないため入学者数の少しの変化が入学定員充足率に大きく影響してしまうという側面があるが、平成 29 年度に博士後期課程の入学定員を見直し、入学定員充足率の適正化に向けて取り組んでいる。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料とともに</u>箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組 5-3-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 博士後期課程の入学定員充足率については、入学定員が少ないため入学者数の少しの変化が入学定員充足率に大きく影響してしまうという側面があるが、平成 29 年度に博士後期課程の入学定員を見直し、入学定員充足率の適正化に向けて取り組んでいる。 	

領域6 総括表

教育研究上の基本組織	教育課程	基準6-1	基準6-2	基準6-3	基準6-4	基準6-5	基準6-6	基準6-7	基準6-8	備考
工学部	機械創造工学課程	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	学士課程
	電気電子情報工学課程	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	学士課程
	物質材料工学課程	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	学士課程
	環境社会基盤工学課程	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	学士課程
	生物機能工学課程	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	学士課程
	情報・経営システム工学課程	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	学士課程
工学研究科	機械創造工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	修士課程
	電気電子情報工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	修士課程
	物質材料工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	修士課程
	環境社会基盤工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	修士課程
	生物機能工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	修士課程
	情報・経営システム工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	修士課程
	原子力システム安全工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	修士課程
	技術科学イノベーション専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	5年一貫制博士課程
	情報・制御工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	博士後期課程
	材料工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	博士後期課程
	エネルギー・環境工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	博士後期課程
生物統合工学専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	博士後期課程	
技術経営研究科	システム安全専攻	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	満たしている	専門職学位課程

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学部 機械創造工学課程

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） （再掲） 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3～4（6 成績の評価と単位の授与）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ シラバス

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ ・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-2</p>	<p>学士課程においては、各課程で毎年度シラバスの確認を行っているが、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、チェックリスト及びチェック体制を作り、授業の内容の確認と授業の内容が各課程の学習・教育目標と合致していることを確認することを明文化した。改訂のなかで各課程は日本学会会議の参照基準の該当分野に合致した学習・教育目標を設定することとしている。また、確認された内容については、カリキュラム管理部会に報告され、その後、教務委員会へと報告する流れとなっており、教育課程の自己点検の状況を内部質保証体制の中で共有する仕組みができています。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学部 機械創造工学課程）

	<p>SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し（平成 29 年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成 31 年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院 5 年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-A-1 SDGs 説明資料</p>
<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した 4 年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のシラバスを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部 3、4 年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について 根拠資料 6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部一大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-4-1</p> <p>1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること</p>	<p>・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等）</p> <p>根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦</p> <p>根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー</p>
<p>分析項目6-4-2</p> <p>各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15</p>	<p>・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等）</p> <p>（再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦</p> <p>（再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー</p>

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料 (電子シラバスのデータ (csv)、又はURL等)、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-1 2019年度学部シラバス (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目 (別紙様式6-4-4) 別紙様式6-4-4 教育上主要と認める授業科目 ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度 (CAP制度) を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例 (大学院設置基準第14条) の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法 (同時性・非同時性、双方向性・非双方向性) について確認できる資料 (シラバス、履修要項、教材等の該当箇所)

授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・ 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・ 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-4-〇	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-4-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし	
改善を要する事項 ・ 該当なし	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学部）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況 (別紙様式6-5-2) 別紙様式6-5-2 (工学部) 学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式6-5-3) 別紙様式6-5-3 (工学部) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) 根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況 根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について 根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式6-5-4) 別紙様式6-5-4 (工学部) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供 (時間割、シラバス等) を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 (再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック 2018 ・障害のある学生に対する支援 (ノートテーカー等) を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック (平成31年3月) ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況 (受講者数等) が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) (再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-5-O	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-5-A	<p>本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシップ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。</p> <p>実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。</p> <p>また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要</p>
活動取組6-5-B	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
活動取組6-5-C	<p>学士課程において海外の8大学等とのツイニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-C-1 ツイニング・プログラム（Webサイト抜粋）</p>

	<p>(再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書</p>
活動取組6-5-D	<p>本学では、学力不足を感じる学部学生を、修士・博士課程の学生が学習支援する「学習サポーター制度」を運用しており、学習支援で得られた情報を授業担当教員へ共有して、授業改善に反映するシステムを構築している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-D-1 学習サポートポスター</p> <p>根拠資料6-5-D-2 学習サポート受講者アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-3 平成30年度1学期 リアルタイムFD対象科目担当教員アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-4 成績不振の基準に関する申し合わせ（非公表）</p> <p>(再掲) 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p>
活動取組6-5-E	<p>教養科目に「社会活動基礎科目」区分を設け、「事故に学ぶ技術者の法務実務」「企業に学ぶ社会人力講義」等の科目を新設し、実践的キャリア教育の充実を図っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-E-1 キャリア教育シラバス抜粋</p>
活動取組6-5-F	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシッ 	

ブ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。

実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。

また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。【活動取組6-5-A】

- ・ eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】
- ・ 学士課程において海外の8大学等とのツィニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。【活動取組6-5-C】
- ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。

また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4(6 成績の評価と単位の授与)
分析項目6-6-2 成績評価基準を学生に周知していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4(6 成績の評価と単位の授与)
分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度)

<p>ていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 根拠資料6-6-3-2 科目ごとの達成度評価資料表紙（機械創造工学課程） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与 （7）） ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3～4（6 成績の評価と単位の授与） ・（個人指導等が中心となる科目の場合）成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与 （7）） ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>本学は、課程ごとに成績評価に関連する資料を一定期間保存する取組を行っており、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、学士課程の成績評価物の保存状況（5年間保存）の確認を明文化し、成績評価の妥当性について客観的に確認できる仕組みができています。また、各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談してきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>箇条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価（科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている）を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>

活動取組 6-6-B	<p>平成 26 年度から、国際的成績評価の適合を目的とした GPA 制度及び学生の十分な修学時間を確保するための CAP 制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及び CAP 制の試行運用について</p>
活動取組 6-6-C	<p>本学は第3学年入学者の入学前既修得単位について、学則第 46 条 4 項において教養科目、外国語科目、専門基礎科目の 66 単位を卒業認定の際に第 1 学年及び第 2 学年で修得したものとみなす規定を設けている。このため、第 3 学年入学者の出身校から履修案内等を取り寄せて修得している単位が本学の基準を満たしているか各課程の教員が確認を行っている。また、その結果、認められた修得単位数が 66 単位以下の場合には、第 4 学年修了時まで不足する単位数を修得するよう履修指導を行っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条 (卒業)</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P27 (5. 第 3 学年入学者の入学前既修得単位の取扱い)</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準 6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目 6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料 6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第 3 条</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条、第 69 条、第 69 条の 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料 1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第 3 条</p>

<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
<p>分析項目6-7-3</p> <p>策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋）</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P5（14 卒業の要件）</p>
<p>分析項目6-7-4</p> <p>卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 ・審査及び試験に合格した学生の学位論文
<p>分析項目6-7-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 (工学部) 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 ・ 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 ・ 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報 (Web サイト抜粋)
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 (工学部) 就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況 ・ 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/01/ ・ 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-1 平成30年度 実務訓練実施後の学部学生に対して実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-3 平成30年度 海外実務訓練を履修した学生に対して実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-4 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート (学部) 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」
<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学部 機械創造工学課程）

<p>により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時）</p> <p>根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果</p> <p>根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告</p> <p>根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果</p> <p>根拠資料6-8-4-5 卒業生インタビュー（機械創造工学専攻・課程）[Webサイト抜粋]</p>
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料</p> <p>根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>本学は大学院で創造的で高度な研究開発能力を備えた技術者及び研究者の育成を目指しており、学部一修士一貫教育をその設立の趣旨としていることから、本学の学士課程の卒業者のうち8割を超える学生は本学修士課程に進学している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>（再掲）別紙様式6-8-2（工学部）就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <p>・ 該当なし</p>	
<p>改善を要する事項</p> <p>・ 該当なし</p>	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学部 電気電子情報工学課程

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4 (6 成績の評価と単位の授与)

分析項目 6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料 6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料 6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を 400 字以内で記述すること。	
分析項目 6-2-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組 6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準 6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目 6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料 6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成 30 年度（2018 年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用
分析項目 6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 (再掲) 根拠資料 2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ シラバス

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ ・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-2</p>	<p>学士課程においては、各課程で毎年度シラバスの確認を行っているが、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、チェックリスト及びチェック体制を作り、授業の内容の確認と授業の内容が各課程の学習・教育目標と合致していることを確認することを明文化した。改訂のなかで各課程は日本学会会議の参照基準の該当分野に合致した学習・教育目標を設定することとしている。また、確認された内容については、カリキュラム管理部会に報告され、その後、教務委員会へと報告する流れとなっており、教育課程の自己点検の状況を内部質保証体制の中で共有する仕組みができています。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p>

	<p>SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し（平成 29 年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成 31 年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院 5 年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-A-1 SDGs 説明資料</p>
<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した 4 年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のシラバスを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部 3、4 年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について 根拠資料 6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲） 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度(2019年度)
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料(電子シラバスのデータ(csv)、又はURL等)、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-1 2019年度学部シラバス (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目(別紙様式6-4-4) 別紙様式6-4-4 教育上主要と認める授業科目 ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度(2019年度)
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度(CAP制度)を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例(大学院設置基準第14条)の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法(同時性・非同時性、双方向性・非双方向性)について確認できる資料(シラバス、履修要項、教材等の該当箇所)

授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・ 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・ 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-4-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-4-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし	
改善を要する事項 ・ 該当なし	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学部）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況 (別紙様式6-5-2) 別紙様式6-5-2 (工学部) 学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式6-5-3) 別紙様式6-5-3 (工学部) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) 根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況 根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について 根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式6-5-4) 別紙様式6-5-4 (工学部) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供 (時間割、シラバス等) を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 (再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック 2018 ・障害のある学生に対する支援 (ノートテーカー等) を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック (平成31年3月) ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況 (受講者数等) が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) (再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-5-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-5-A	<p>本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシップ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。</p> <p>実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。</p> <p>また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要</p>
活動取組6-5-B	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
活動取組6-5-C	<p>学士課程において海外の8大学等とのツイニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-C-1 ツイニング・プログラム（Webサイト抜粋）</p>

	<p>(再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツィニング・プログラムの実施状況報告書</p>
活動取組6-5-D	<p>本学では、学力不足を感じる学部学生を、修士・博士課程の学生が学習支援する「学習サポーター制度」を運用しており、学習支援で得られた情報を授業担当教員へ共有して、授業改善に反映するシステムを構築している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-D-1 学習サポートポスター</p> <p>根拠資料6-5-D-2 学習サポート受講者アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-3 平成30年度1学期 リアルタイムFD対象科目担当教員アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-4 成績不振の基準に関する申し合わせ (非公表)</p> <p>(再掲) 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p>
活動取組6-5-E	<p>教養科目に「社会活動基礎科目」区分を設け、「事故に学ぶ技術者の法務実務」「企業に学ぶ社会人力講義」等の科目を新設し、実践的キャリア教育の充実を図っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-E-1 キャリア教育シラバス抜粋</p>
活動取組6-5-F	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシッ 	

ブ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。

実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。

また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。【活動取組6-5-A】

- ・ eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】
- ・ 学士課程において海外の8大学等とのツィニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。【活動取組6-5-C】
- ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。

また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4(6 成績の評価と単位の授与)
分析項目6-6-2 成績評価基準を学生に周知していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4(6 成績の評価と単位の授与)
分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度)

<p>ていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 根拠資料6-6-3-2 科目ごとの達成度評価資料表紙（機械創造工学課程） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与 （7）） ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3～4（6 成績の評価と単位の授与） ・（個人指導等が中心となる科目の場合）成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与 （7）） ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>本学は、課程ごとに成績評価に関連する資料を一定期間保存する取組を行っており、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、学士課程の成績評価物の保存状況（5年間保存）の確認を明文化し、成績評価の妥当性について客観的に確認できる仕組みができています。また、各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談してきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価（科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている）を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>

<p>活動取組 6-6-B</p>	<p>平成 26 年度から、国際的成績評価の適合を目的とした GPA 制度及び学生の十分な修学時間を確保するための CAP 制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及び CAP 制の試行運用について</p>
<p>活動取組 6-6-C</p>	<p>本学は第3学年入学者の入学前既修得単位について、学則第 46 条 4 項において教養科目、外国語科目、専門基礎科目の 66 単位を卒業認定の際に第 1 学年及び第 2 学年で修得したものとみなす規定を設けている。このため、第 3 学年入学者の出身校から履修案内等を取り寄せて修得している単位が本学の基準を満たしているか各課程の教員が確認を行っている。また、その結果、認められた修得単位数が 66 単位以下の場合には、第 4 学年修了時まで不足する単位数を修得するよう履修指導を行っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条 (卒業)</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P35 (5. 第 3 学年入学者の入学前既修得単位の取扱い)</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

<p>基準 6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目 6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料 6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第 3 条</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条、第 69 条、第 69 条の 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料 1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第 3 条</p>

<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
<p>分析項目6-7-3</p> <p>策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋）</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P5（14 卒業の要件）</p>
<p>分析項目6-7-4</p> <p>卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 ・審査及び試験に合格した学生の学位論文
<p>分析項目6-7-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） <p>別紙様式6-8-1 (工学部) 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格の取得者数が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報 (Web サイト抜粋)</p>
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） <p>別紙様式6-8-2 (工学部) 就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） <p>https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/01/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） <p>根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍</p>
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-3-1 平成30年度 実務訓練実施後の学部学生に対して実施したアンケート結果</p> <p>根拠資料6-8-3-3 平成30年度 海外実務訓練を履修した学生に対して実施したアンケート結果</p> <p>根拠資料6-8-3-4 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート (学部)</p> <p>根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」</p>
<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料

<p>により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果</p>
<p>分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）</p>
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</u></p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>本学は大学院で創造的で高度な研究開発能力を備えた技術者及び研究者の育成を目指しており、学部一修士一貫教育をその設立の趣旨としていることから、本学の学士課程の卒業者のうち8割を超える学生は本学修士課程に進学している。 【根拠資料】 （再掲）別紙様式6-8-2 (工学部) 就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし</p>	
<p>改善を要する事項 ・ 該当なし</p>	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学部 物質材料工学課程

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） （再掲） 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3～4（6 成績の評価と単位の授与）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針(学士課程)[Webサイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針(学士課程)[Webサイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料(カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等) 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度(2018年度) 授業科目の開設状況が確認できる資料(コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別) (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ シラバス

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ ・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-2</p>	<p>学士課程においては、各課程で毎年度シラバスの確認を行っているが、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、チェックリスト及びチェック体制を作り、授業の内容の確認と授業の内容が各課程の学習・教育目標と合致していることを確認することを明文化した。改訂のなかで各課程は日本学会会議の参照基準の該当分野に合致した学習・教育目標を設定することとしている。また、確認された内容については、カリキュラム管理部会に報告され、その後、教務委員会へと報告する流れとなっており、教育課程の自己点検の状況を内部質保証体制の中で共有する仕組みができています。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学部 物質材料工学課程）

	<p>SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し（平成 29 年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成 31 年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院 5 年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-A-1 SDGs 説明資料</p>
活動取組 6-3-B	<p>学部・大学院の連続性に配慮した 4 年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のシラバスを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部 3、4 年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について 根拠資料 6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組

- 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部一大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

- 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料 (電子シラバスのデータ (csv)、又はURL等)、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-1 2019年度学部シラバス (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目 (別紙様式6-4-4) 別紙様式6-4-4 教育上主要と認める授業科目 ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度 (CAP制度) を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例 (大学院設置基準第14条) の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法 (同時性・非同時性、双方向性・非双方向性) について確認できる資料 (シラバス、履修要項、教材等の該当箇所)

授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・ 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・ 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-4-〇	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-4-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし	
改善を要する事項 ・ 該当なし	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学部）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況 (別紙様式6-5-2) 別紙様式6-5-2 (工学部) 学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式6-5-3) 別紙様式6-5-3 (工学部) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) 根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況 根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について 根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式6-5-4) 別紙様式6-5-4 (工学部) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供 (時間割、シラバス等) を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 (再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック 2018 ・障害のある学生に対する支援 (ノートテーカー等) を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック (平成31年3月) ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況 (受講者数等) が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) (再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-5-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-5-A	<p>本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシップ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。</p> <p>実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。</p> <p>また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要</p>
活動取組6-5-B	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
活動取組6-5-C	<p>学士課程において海外の8大学等とのツイニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-C-1 ツイニング・プログラム（Webサイト抜粋）</p>

	<p>(再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツィニング・プログラムの実施状況報告書</p>
活動取組6-5-D	<p>本学では、学力不足を感じる学部学生を、修士・博士課程の学生が学習支援する「学習サポーター制度」を運用しており、学習支援で得られた情報を授業担当教員へ共有して、授業改善に反映するシステムを構築している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-D-1 学習サポートポスター</p> <p>根拠資料6-5-D-2 学習サポート受講者アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-3 平成30年度1学期 リアルタイムFD対象科目担当教員アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-4 成績不振の基準に関する申し合わせ（非公表）</p> <p>(再掲) 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p>
活動取組6-5-E	<p>教養科目に「社会活動基礎科目」区分を設け、「事故に学ぶ技術者の法務実務」「企業に学ぶ社会人力講義」等の科目を新設し、実践的キャリア教育の充実を図っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-E-1 キャリア教育シラバス抜粋</p>
活動取組6-5-F	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシッ 	

ブ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。

実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。

また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。【活動取組6-5-A】

- ・ eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】
- ・ 学士課程において海外の8大学等とのツィニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。【活動取組6-5-C】
- ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。

また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4(6 成績の評価と単位の授与)
分析項目6-6-2 成績評価基準を学生に周知していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4(6 成績の評価と単位の授与)
分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度)

<p>ていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 根拠資料6-6-3-2 科目ごとの達成度評価資料表紙（機械創造工学課程） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与 （7）） ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3～4（6 成績の評価と単位の授与） ・（個人指導等が中心となる科目の場合）成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与 （7）） ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>本学は、課程ごとに成績評価に関連する資料を一定期間保存する取組を行っており、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、学士課程の成績評価物の保存状況（5年間保存）の確認を明文化し、成績評価の妥当性について客観的に確認できる仕組みができています。また、各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談してきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>箇条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価（科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている）を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>

活動取組 6-6-B	<p>平成 26 年度から、国際的成績評価の適合を目的とした GPA 制度及び学生の十分な修学時間を確保するための CAP 制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及び CAP 制の試行運用について</p>
活動取組 6-6-C	<p>本学は第3学年入学者の入学前既修得単位について、学則第 46 条 4 項において教養科目、外国語科目、専門基礎科目の 66 単位を卒業認定の際に第 1 学年及び第 2 学年で修得したものとみなす規定を設けている。このため、第 3 学年入学者の出身校から履修案内等を取り寄せて修得している単位が本学の基準を満たしているか各課程の教員が確認を行っている。また、その結果、認められた修得単位数が 66 単位以下の場合には、第 4 学年修了時まで不足する単位数を修得するよう履修指導を行っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条 (卒業)</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P42 (4-4. 第 3 学年入学者の入学前既修得単位の取り扱い)</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準 6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目 6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料 6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第 3 条</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条、第 69 条、第 69 条の 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料 1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第 3 条</p>

長岡技術科学大学 領域6 (工学部 物質材料工学課程)

<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
<p>分析項目6-7-3</p> <p>策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位 (Web サイト抜粋)</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P5 (14 卒業の要件)</p>
<p>分析項目6-7-4</p> <p>卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 ・審査及び試験に合格した学生の学位論文
<p>分析項目6-7-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 (工学部) 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 ・ 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 ・ 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報 (Web サイト抜粋)
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 (工学部) 就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況 ・ 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポートレートにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/01/ ・ 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-1 平成30年度 実務訓練実施後の学部学生に対して実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-3 平成30年度 海外実務訓練を履修した学生に対して実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-4 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート (学部) 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」
<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料

<p>により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果</p>
<p>分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）</p>
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>本学は大学院で創造的で高度な研究開発能力を備えた技術者及び研究者の育成を目指しており、学部一修士一貫教育をその設立の趣旨としていることから、本学の学士課程の卒業者のうち8割を超える学生は本学修士課程に進学している。 【根拠資料】 （再掲）別紙様式6-8-2 (工学部) 就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし</p>	
<p>改善を要する事項 ・ 該当なし</p>	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学部 環境社会基盤工学課程

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4 (6 成績の評価と単位の授与)

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ シラバス

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ ・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-2</p>	<p>学士課程においては、各課程で毎年度シラバスの確認を行っているが、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、チェックリスト及びチェック体制を作り、授業の内容の確認と授業の内容が各課程の学習・教育目標と合致していることを確認することを明文化した。改訂のなかで各課程は日本学会会議の参照基準の該当分野に合致した学習・教育目標を設定することとしている。また、確認された内容については、カリキュラム管理部会に報告され、その後、教務委員会へと報告する流れとなっており、教育課程の自己点検の状況を内部質保証体制の中で共有する仕組みができています。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p>

	<p>SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し（平成 29 年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成 31 年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院 5 年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-A-1 SDGs 説明資料</p>
<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した 4 年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のシラバスを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部 3、4 年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について 根拠資料 6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標 (SDGs) に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成 30 年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト (UNAI) における SDG ゴール 9 (産業と技術革新の基盤を作ろう) の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学は SDGs の 17 のゴールそれぞれに世界で 1 大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでの SDGs に係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し (平成 29 年度:サイエンスアゴラ賞を受賞)、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成 31 年度から本学の学部一大学院一貫教育システム (SDG Engineer Course に対応)、SDG プロフェッショナルコース (SDG Professional Course)、大学院 5 年一貫性博士課程 (GIGAKU Innovation Course に対応) の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG (環境、社会、ガバナンス) 経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。【活動取組 6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準 6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目 6-4-1 1 年間の授業を行う期間が原則として 35 週にわたるものとなっていること	・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料 (学年暦、年間スケジュール等) 根拠資料 6-4-1-1 平成 31 年度 学年暦 根拠資料 6-4-1-2 平成 31 年度 授業カレンダー
分析項目 6-4-2 各科目の授業期間が 10 週又は 15 週にわたるものとなっていること。なお、10 週又は 15 週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10 週又は 15	・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料 (学年暦、年間スケジュール等) (再掲) 根拠資料 6-4-1-1 平成 31 年度 学年暦 (再掲) 根拠資料 6-4-1-2 平成 31 年度 授業カレンダー

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料 (電子シラバスのデータ (csv)、又はURL等)、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-1 2019年度学部シラバス (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目 (別紙様式6-4-4) 別紙様式6-4-4 教育上主要と認める授業科目 ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度 (CAP制度) を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例 (大学院設置基準第14条) の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法 (同時性・非同時性、双方向性・非双方向性) について確認できる資料 (シラバス、履修要項、教材等の該当箇所)

授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・ 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・ 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-4-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-4-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし	
改善を要する事項 ・ 該当なし	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学部）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況 (別紙様式6-5-2) 別紙様式6-5-2 (工学部) 学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式6-5-3) 別紙様式6-5-3 (工学部) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) 根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況 根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について 根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式6-5-4) 別紙様式6-5-4 (工学部) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供 (時間割、シラバス等) を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 (再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック 2018 ・障害のある学生に対する支援 (ノートテーカー等) を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック (平成31年3月) ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況 (受講者数等) が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) (再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-5-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-5-A	<p>本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシップ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。</p> <p>実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。</p> <p>また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要</p>
活動取組6-5-B	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
活動取組6-5-C	<p>学士課程において海外の8大学等とのツイニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-C-1 ツイニング・プログラム（Webサイト抜粋）</p>

	(再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツィニング・プログラムの実施状況報告書
活動取組6-5-D	<p>本学では、学力不足を感じる学部学生を、修士・博士課程の学生が学習支援する「学習サポーター制度」を運用しており、学習支援で得られた情報を授業担当教員へ共有して、授業改善に反映するシステムを構築している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-D-1 学習サポートポスター</p> <p>根拠資料6-5-D-2 学習サポート受講者アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-3 平成30年度1学期 リアルタイムFD対象科目担当教員アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-4 成績不振の基準に関する申し合わせ (非公表)</p> <p>(再掲) 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p>
活動取組6-5-E	<p>教養科目に「社会活動基礎科目」区分を設け、「事故に学ぶ技術者の法務実務」「企業に学ぶ社会人力講義」等の科目を新設し、実践的キャリア教育の充実を図っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-E-1 キャリア教育シラバス抜粋</p>
活動取組6-5-F	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシッ 	

ブ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。

実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。

また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。【活動取組6-5-A】

- ・ eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】
- ・ 学士課程において海外の8大学等とのツィニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。【活動取組6-5-C】
- ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。

また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4(6 成績の評価と単位の授与)
分析項目6-6-2 成績評価基準を学生に周知していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4(6 成績の評価と単位の授与)
分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度)

<p>ていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価分布等のデータに関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 根拠資料6-6-3-2 科目ごとの達成度評価資料表紙（機械創造工学課程） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与 （7）） ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3～4（6 成績の評価と単位の授与） ・（個人指導等が中心となる科目の場合）成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与 （7）） ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>本学は、課程ごとに成績評価に関連する資料を一定期間保存する取組を行っており、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、学士課程の成績評価物の保存状況（5年間保存）の確認を明文化し、成績評価の妥当性について客観的に確認できる仕組みができています。また、各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談してきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>箇条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価（科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている）を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>

活動取組 6-6-B	<p>平成 26 年度から、国際的成績評価の適合を目的とした GPA 制度及び学生の十分な修学時間を確保するための CAP 制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及び CAP 制の試行運用について</p>
活動取組 6-6-C	<p>本学は第3学年入学者の入学前既修得単位について、学則第 46 条 4 項において教養科目、外国語科目、専門基礎科目の 66 単位を卒業認定の際に第 1 学年及び第 2 学年で修得したものとみなす規定を設けている。このため、第 3 学年入学者の出身校から履修案内等を取り寄せて修得している単位が本学の基準を満たしているか各課程の教員が確認を行っている。また、その結果、認められた修得単位数が 66 単位以下の場合には、第 4 学年修了時まで不足する単位数を修得するよう履修指導を行っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条 (卒業)</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P49 (3. 第 3 学年入学者の入学前既修得単位の取扱い)</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準 6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目 6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料 6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第 3 条</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条、第 69 条、第 69 条の 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料 1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第 3 条</p>

<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
<p>分析項目6-7-3</p> <p>策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋）</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P5（14 卒業の要件）</p>
<p>分析項目6-7-4</p> <p>卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 ・審査及び試験に合格した学生の学位論文
<p>分析項目6-7-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 (工学部) 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 ・ 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 ・ 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報 (Web サイト抜粋)
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の様子が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 (工学部) 就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況 ・ 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/01/ ・ 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-1 平成30年度 実務訓練実施後の学部学生に対して実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-3 平成30年度 海外実務訓練を履修した学生に対して実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-4 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート (学部) 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」
<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料

<p>により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果</p>
<p>分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）</p>
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</u></p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>本学は大学院で創造的で高度な研究開発能力を備えた技術者及び研究者の育成を目指しており、学部一修士一貫教育をその設立の趣旨としていることから、本学の学士課程の卒業者のうち8割を超える学生は本学修士課程に進学している。 【根拠資料】 （再掲）別紙様式6-8-2（工学部）就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし</p>	
<p>改善を要する事項 ・ 該当なし</p>	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学部 生物機能工学課程

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針 (学士課程) [Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針 (学士課程) [Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条 (成績の評価) (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4 (6 成績の評価と単位の授与)

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ シラバス

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ ・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-2</p>	<p>学士課程においては、各課程で毎年度シラバスの確認を行っているが、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、チェックリスト及びチェック体制を作り、授業の内容の確認と授業の内容が各課程の学習・教育目標と合致していることを確認することを明文化した。改訂のなかで各課程は日本学会会議の参照基準の該当分野に合致した学習・教育目標を設定することとしている。また、確認された内容については、カリキュラム管理部会に報告され、その後、教務委員会へと報告する流れとなっており、教育課程の自己点検の状況を内部質保証体制の中で共有する仕組みができています。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学部 生物機能工学課程）

	<p>SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し（平成 29 年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成 31 年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院 5 年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-A-1 SDGs 説明資料</p>
<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した 4 年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のシラバスを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部 3、4 年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について 根拠資料 6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部一大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲） 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料 (電子シラバスのデータ (csv)、又はURL等)、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-1 2019年度学部シラバス (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目 (別紙様式6-4-4) 別紙様式6-4-4 教育上主要と認める授業科目 ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度 (CAP制度) を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例 (大学院設置基準第14条) の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法 (同時性・非同時性、双方向性・非双方向性) について確認できる資料 (シラバス、履修要項、教材等の該当箇所)

授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・ 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・ 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-4-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-4-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし	
改善を要する事項 ・ 該当なし	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学部）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況 (別紙様式6-5-2) 別紙様式6-5-2 (工学部) 学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式6-5-3) 別紙様式6-5-3 (工学部) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) 根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況 根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について 根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式6-5-4) 別紙様式6-5-4 (工学部) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供 (時間割、シラバス等) を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 (再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック 2018 ・障害のある学生に対する支援 (ノートテーカー等) を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック (平成31年3月) ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況 (受講者数等) が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	

分析項目 6-5-O	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料</u> とともに簡条書きで記述すること。	
活動取組 6-5-A	<p>本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシップ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。</p> <p>実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。</p> <p>また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況</p> <p>(再掲) 根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について</p> <p>(再掲) 根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要</p>
活動取組 6-5-B	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
活動取組 6-5-D	<p>本学では、学力不足を感じる学部学生を、修士・博士課程の学生が学習支援する「学習サポーター制度」を運用しており、学習支援で得られた情報を授業担当教員へ共有して、授業改善に反映するシステムを構築している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-D-1 学習サポートポスター</p> <p>根拠資料6-5-D-2 学習サポート受講者アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-3 平成30年度1学期 リアルタイムFD対象科目担当教員アンケート結果</p>

	<p>根拠資料6-5-D-4 成績不振の基準に関する申し合わせ（非公表）</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p>
活動取組6-5-E	<p>教養科目に「社会活動基礎科目」区分を設け、「事故に学ぶ技術者の法務実務」「企業に学ぶ社会人力講義」等の科目を新設し、実践的キャリア教育の充実を図っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-E-1 キャリア教育シラバス抜粋</p>
活動取組6-5-F	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシップ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。 <p>実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。</p> <p>また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。【活動取組6-5-A】</p> <ul style="list-style-type: none"> eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該 	

<p>機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学士課程において海外の8大学等とのツィニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。【活動取組6-5-C】 ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4（6 成績の評価と単位の授与）
<p>分析項目6-6-2 成績評価基準を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4（6 成績の評価と単位の授与）
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表（平成30年度） ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 根拠資料6-6-3-2 科目ごとの達成度評価資料表紙（機械創造工学課程） (再掲) 根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与（7）） ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4（6 成績の評価と単位の授与） ・（個人指導等が中心となる科目の場合）成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料

<p>分析項目6-6-4</p> <p>成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3 (6 成績の評価と単位の授与 (7)) ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等) (再掲) 根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>本学は、課程ごとに成績評価に関連する資料を一定期間保存する取組を行っており、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、学士課程の成績評価物の保存状況(5年間保存)の確認を明文化し、成績評価の妥当性について客観的に確認できる仕組みができています。また、各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談してきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準を策定した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPAの導入に係る運用方法、及びCAP制の試行運用について</p>
<p>活動取組6-6-C</p>	<p>本学は第3学年入学者の入学前既修得単位について、学則第46条4項において教養科目、外国語科目、専門基礎科目の66単位を卒業認定の際に第1学年及び第2学年で修得したものとみなす規定を設けている。このため、第3学年入学者の出身校から履修案内等を取り寄せて修得している単位が本学の基準を満たしているか各課程の教員が確認を行っている。また、その結果、認められた修得単位数が66単位以下の場合には、第4学年修了時まで不足する単位数を修得するよう履修指導を行っている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条 (卒業)</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P56 (4. 第3学年入学者の履修基準)</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件(以下「卒業(修了)要件」という。)を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準(以下「学位論文審査基準」という。)を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文(課題研究)の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
<p>分析項目6-7-3</p> <p>策定した卒業(修了)要件(学位論文評価基準を含む)を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業(修了)要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位(Webサイト抜粋)</p>

	(再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P5 (14 卒業の要件)
分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業(修了)要件(学位論文評価基準を含む)に則して組織的に実施していること	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会等での審議状況等の資料 根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉 ・学位論文(特定課題研究の成果を含む。)に係る評価基準、審査手続き等 ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 ・審査及び試験に合格した学生の学位論文
分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-7-〇	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 根拠資料 とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-7-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-8-1 標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、	<ul style="list-style-type: none"> ・標準修業年限内の卒業(修了)率(※1)(過去5年分)(別紙様式6-8-1) ・「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率(※2)(過去5年分)(別紙様式6-8-1)

<p>資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<p>別紙様式6-8-1（工学部）標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格の取得者数が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）</p>
<p>分析項目6-8-2 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） <p>別紙様式6-8-2（工学部）就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/01/ 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） <p>根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍</p>
<p>分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-3-1 平成30年度 実務訓練実施後の学部学生に対して実施したアンケート結果</p> <p>根拠資料6-8-3-3 平成30年度 海外実務訓練を履修した学生に対して実施したアンケート結果</p> <p>根拠資料6-8-3-4 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（学部）</p> <p>根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」</p>
<p>分析項目6-8-4 卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） <p>根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果</p> <p>根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告</p> <p>根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果</p>
<p>分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）</p>

【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-8-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-8-A	<p>本学は大学院で創造的で高度な研究開発能力を備えた技術者及び研究者の育成を目指しており、学部一修士一貫教育をその設立の趣旨としていることから、本学の学士課程の卒業者のうち8割を超える学生は本学修士課程に進学している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 別紙様式6-8-2 (工学部) 就職率(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学率の状況</p>
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学部 情報・経営システム工学課程

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） （再掲） 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3～4（6 成績の評価と単位の授与）

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

分析項目 6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料 6-1-1-1 学位授与の方針（学士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料 6-2-1-1 教育課程の編成・実施の方針（学士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を 400 字以内で記述すること。	
分析項目 6-2-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組 6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準 6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目 6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料 6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成 30 年度（2018 年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用
分析項目 6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 (再掲) 根拠資料 2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ シラバス

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

	<ul style="list-style-type: none"> ・その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ ・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-2</p>	<p>学士課程においては、各課程で毎年度シラバスの確認を行っているが、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、チェックリスト及びチェック体制を作り、授業の内容の確認と授業の内容が各課程の学習・教育目標と合致していることを確認することを明文化した。改訂のなかで各課程は日本学会会議の参照基準の該当分野に合致した学習・教育目標を設定することとしている。また、確認された内容については、カリキュラム管理部会に報告され、その後、教務委員会へと報告する流れとなっており、教育課程の自己点検の状況を内部質保証体制の中で共有する仕組みができています。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

	<p>SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し（平成 29 年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成 31 年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院 5 年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-A-1 SDGs 説明資料</p>
活動取組 6-3-B	<p>学部・大学院の連続性に配慮した 4 年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のシラバスを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部 3、4 年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料 6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について 根拠資料 6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部一大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度(2019年度)
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-1 2019年度学部シラバス (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） 別紙様式6-4-4 教育上主要と認める授業科目 ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-1 学部授業科目概要 Syllabus 平成31年度(2019年度)
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所）

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・ 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・ 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-4-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-4-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし	
改善を要する事項 ・ 該当なし	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学部）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2（工学部）学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3（工学部）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等） 根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況 根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について 根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4（工学部）履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版) ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供（時間割、シラバス等）を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 （再掲）根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018 ・障害のある学生に対する支援（ノートテーカー等）を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月) ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況（受講者数等）が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版) （再掲）根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツイニング・プログラムの実施状況報告書

【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-5-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-5-A	<p>本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシップ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。</p> <p>実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。</p> <p>また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-1 平成30年度 実務訓練実施状況</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-2 平成30年度実務訓練シンポジウムの実施について</p> <p>（再掲）根拠資料6-5-3-3 実務訓練制度の概要</p>
活動取組6-5-B	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
活動取組6-5-C	<p>学士課程において海外の8大学等とのツイニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-C-1 ツイニング・プログラム（Webサイト抜粋）</p>

	<p>(再掲) 根拠資料6-5-1-2 長岡技術科学大学ツィニング・プログラムの実施状況報告書</p>
活動取組6-5-D	<p>本学では、学力不足を感じる学部学生を、修士・博士課程の学生が学習支援する「学習サポーター制度」を運用しており、学習支援で得られた情報を授業担当教員へ共有して、授業改善に反映するシステムを構築している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-D-1 学習サポートポスター</p> <p>根拠資料6-5-D-2 学習サポート受講者アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-3 平成30年度1学期 リアルタイムFD対象科目担当教員アンケート結果</p> <p>根拠資料6-5-D-4 成績不振の基準に関する申し合わせ（非公表）</p> <p>(再掲) 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p>
活動取組6-5-E	<p>教養科目に「社会活動基礎科目」区分を設け、「事故に学ぶ技術者の法務実務」「企業に学ぶ社会人力講義」等の科目を新設し、実践的キャリア教育の充実を図っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-E-1 キャリア教育シラバス抜粋</p>
活動取組6-5-F	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の3つのポリシーで謳っている「実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成」実現のための特徴的な取組みとして、修士課程に進学予定の学部4年生を対象に、約5か月間の長期インターンシッ 	

ブ科目である「実務訓練」を必修科目として履修させている。ここで得られた経験をもとに、大学院修士課程での研究の意識づけを行わせるとともに職業意識を高め、将来の技術の創造展開に大きく役立たせようとする取組である。平成30年度は、275機関に373名の学生を派遣した。海外企業や学術交流協定を締結している海外の大学等にも学生を派遣しており、平成30年度は、42機関に72名を派遣した。また、学部4年生を対象に実務訓練先企業の担当者の意見等を聞く機会である実務訓練シンポジウムを毎年度開催している。

実務訓練の効果の測定や、改善等を目的として、履修した学生及び修了生に、①実務訓練実施後、②修士課程修了時、③大学院修了5年経過後の3回のアンケートを実施し、積極性、主体性、協調性、コミュニケーション能力等の必要性を認識し、効果的であったとの回答が得られている。

また、本取組は、文部科学省が平成30年度から開始した、「大学等におけるインターンシップ表彰」において表彰を受け、優れた取組として評価を受けている。【活動取組6-5-A】

- ・ eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】
- ・ 学士課程において海外の8大学等とのツィニング・プログラムを実施し、留学生に対して工学分野の日本語教材を作成し、現地大学での前半教育、工学部の授業の教科書又は副読本として活用するなど、様々な取組がなされており、日本語・日本文化・ものづくりを理解した技術者を養成する極めて有効な教育プログラムとなっている。【活動取組6-5-C】
- ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。

また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4（6 成績の評価と単位の授与）
分析項目6-6-2 成績評価基準を学生に周知していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 (再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3~4（6 成績の評価と単位の授与）
分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表（平成30年度）

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

<p>ていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 根拠資料6-6-3-2 科目ごとの達成度評価資料表紙（機械創造工学課程） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与（7）） ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3～4（6 成績の評価と単位の授与） ・（個人指導等が中心となる科目の場合）成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 （再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P3（6 成績の評価と単位の授与（7）） ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料（答案、レポート、出席記録等） （再掲）根拠資料2-2-2-1 長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>本学は、課程ごとに成績評価に関連する資料を一定期間保存する取組を行っており、令和元年度に「長岡技術科学大学教務委員会カリキュラム管理部会に関する申合せ」を改訂し、学士課程の成績評価物の保存状況（5年間保存）の確認を明文化し、成績評価の妥当性について客観的に確認できる仕組みができています。また、各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談してきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>箇条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価（科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている）を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

活動取組 6-6-B	<p>平成 26 年度から、国際的成績評価の適合を目的とした GPA 制度及び学生の十分な修学時間を確保するための CAP 制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及び CAP 制の試行運用について</p>
活動取組 6-6-C	<p>本学は第3学年入学者の入学前既修得単位について、学則第 46 条 4 項において教養科目、外国語科目、専門基礎科目の 66 単位を卒業認定の際に第 1 学年及び第 2 学年で修得したものとみなす規定を設けている。このため、第 3 学年入学者の出身校から履修案内等を取り寄せて修得している単位が本学の基準を満たしているか各課程の教員が確認を行っている。また、その結果、認められた修得単位数が 66 単位以下の場合には、第 4 学年修了時まで不足する単位数を修得するよう履修指導を行っている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条 (卒業)</p> <p>(再掲) 根拠資料 2-2-4-1 学部履修案内 平成 31 年度 入学者用 ※P63 (3. 第 3 学年入学者及び第 3 学年進学者の履修基準)</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準 6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目 6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料 6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第 3 条</p> <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 46 条、第 69 条、第 69 条の 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料 1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第 3 条</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料
<p>分析項目6-7-3</p> <p>策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋）</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P5（14 卒業の要件）</p>
<p>分析項目6-7-4</p> <p>卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 ・審査及び試験に合格した学生の学位論文
<p>分析項目6-7-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） <p>別紙様式6-8-1（工学部）標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資格の取得者数が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）</p>
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） <p>別紙様式6-8-2（工学部）就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） <p>https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/01/</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） <p>根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍</p>
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <p>根拠資料6-8-3-1 平成30年度 実務訓練実施後の学部学生に対して実施したアンケート結果</p> <p>根拠資料6-8-3-3 平成30年度 海外実務訓練を履修した学生に対して実施したアンケート結果</p> <p>根拠資料6-8-3-4 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（学部）</p> <p>根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」</p>
<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学部 情報・経営システム工学課程）

<p>により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時）</p> <p>根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果</p> <p>根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告</p> <p>根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果</p> <p>根拠資料6-8-4-6 卒業生の声（情報・経営システム工学）[Webサイト抜粋]</p>
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>・就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料</p> <p>根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>本学は大学院で創造的で高度な研究開発能力を備えた技術者及び研究者の育成を目指しており、学部一修士一貫教育をその設立の趣旨としていることから、本学の学士課程の卒業者のうち8割を超える学生は本学修士課程に進学している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>（再掲）別紙様式6-8-2（工学部）就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <p>・ 該当なし</p>	
<p>改善を要する事項</p> <p>・ 該当なし</p>	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 機械創造工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	
基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)</p>
<p>分析項目6-3-3 他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143 (大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ)
<p>分析項目6-3-4 大学院課程(専門職学位課程を除く)においては、学位論文(特定の課題についての研究の成果を含む)の作成等に係る指導(以下「研究指導」という)に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文(特定課題研究の成果を含む。)指導体制が確認できる資料(規定、申合せ等) 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条(指導教員) 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P31～64 (各専攻の「4. 研究指導及び修士論文」、「4. 修士論文」) ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 (抜粋) 学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目 (非公表) ※P1～2 (E-1-14、E-1-15) ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況 (非公表) ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」(シラバス抜粋) ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料(コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別)※前述の資料と同じ

<p>教育課程連携協議会を運用していること</p>	<p>・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-4</p>	<p>修士課程の各専攻はそれぞれ修士論文の中間審査を行っている。具体的には機械創造工学専攻では1人あたり7分の発表で5分の質疑応答を行う。それに対して3人以上の聴講教員（原則として次の発表の主査（または大講座内の講師以上の教員）＋各大講座の助教（いない場合は講師以上の教員））が学生の発表を聴講し、審査を行っている。聴講教員の審査コメントについてはWeb上で入力され、審査を受けた学生が確認できる方式を取っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料</p>

<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した4年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のカリキュラムを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部3、4年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について</p> <p>根拠資料6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99 (大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ)</p>
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)

- 当該基準を満たす
- 当該基準を満たさない

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。

【活動取組6-3-A】

改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	<ul style="list-style-type: none"> シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> 教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） シラバス
分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> CAP制に関する規定
分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）

<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<p>・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-8</p> <p>教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<p>・連携協力校との連携状況が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-9</p> <p>夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<p>・実施している配慮が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-10</p> <p>通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<p>・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所）</p> <p>・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料</p> <p>・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料</p> <p>・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-11</p> <p>専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<p>・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-4-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-4-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1 (工学研究科) 履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2 (工学研究科) 学習相談の実施状況 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3 (工学研究科) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等） 根拠資料6-5-3-4 2019年度 修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）実施要領 根拠資料6-5-3-5 2019年度 修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）支援（日本人学生対象）要項 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P73~75 (修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）科目)
分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4 (工学研究科) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況

<p>を行う体制を整えていること</p>	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等)を行っている場合は、その該当箇所 <p>根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版</p> <p>根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019</p> <p>根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生に対する支援(ノートテーカー等)を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況(受講者数等)が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-O</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-5-B</p>	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
<p>活動取組6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】 翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)
<p>分析項目6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件(以下「卒業(修了)要件」という。)を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準(以下「学位論文審査基準」という。)を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文(課題研究)の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P21</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/02/（修士課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-2 平成30年度 実務訓練を経験した修士2年生に対して修了時に実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」

<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果 根拠資料6-8-4-5 卒業生インタビュー（機械創造工学専攻・課程）[Webサイト抜粋]
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 電気電子情報工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 電気電子情報工学専攻）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 電気電子情報工学専攻）

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条（指導教員） 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P31～64（各専攻の「4. 研究指導及び修士論文」、「4. 修士論文」） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 (抜粋) 学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表） ※P1～2（E-1-14、E-1-15） ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況（非公表） ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」（シラバス抜粋） ・T A・R Aとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、T A・R Aの採用、活用状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ

<p>教育課程連携協議会を運用していること</p>	<p>・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-4</p>	<p>修士課程の各専攻はそれぞれ修士論文の中間審査を行っている。具体的には機械創造工学専攻では1人あたり7分の発表で5分の質疑応答を行う。それに対して3人以上の聴講教員（原則として次の発表の主査（または大講座内の講師以上の教員）＋各大講座の助教（いない場合は講師以上の教員））が学生の発表を聴講し、審査を行っている。聴講教員の審査コメントについてはWeb上で入力され、審査を受けた学生が確認できる方式を取っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料</p>

<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した4年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のカリキュラムを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部3、4年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について</p> <p>根拠資料6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。 <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【活動取組6-3-A】</p>	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー ・ シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・ シラバス
分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAP制に関する規定
分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）

<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8</p> <p>教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9</p> <p>夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10</p> <p>通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
<p>分析項目6-4-11</p> <p>専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p>	
<p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-4-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-4-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況 (別紙様式6-5-1) 別紙様式6-5-1 (工学研究科) 履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談の実施状況 (別紙様式6-5-2) 別紙様式6-5-2 (工学研究科) 学習相談の実施状況 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式6-5-3) 別紙様式6-5-3 (工学研究科) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) 根拠資料6-5-3-4 2019年度 修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 実施要領 根拠資料6-5-3-5 2019年度 修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 支援 (日本人学生対象) 要項 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P73~75 (修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 科目)
分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式6-5-4) 別紙様式6-5-4 (工学研究科) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況

<p>を行う体制を整えていること</p>	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等)を行っている場合は、その該当箇所 <p>根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版</p> <p>根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019</p> <p>根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生に対する支援(ノートテーカー等)を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況(受講者数等)が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-O</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-5-B</p>	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
<p>活動取組6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】 ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） （再掲）根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋）
<p>分析項目6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPAの導入に係る運用方法、及びCAP制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P21</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/02/（修士課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-2 平成30年度 実務訓練を経験した修士2年生に対して修了時に実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 電気電子情報工学専攻）

<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 物質材料工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度(2019年度)</p>
<p>分析項目6-3-3 他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143(大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ)
<p>分析項目6-3-4 大学院課程(専門職学位課程を除く)においては、学位論文(特定の課題についての研究の成果を含む)の作成等に係る指導(以下「研究指導」という)に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文(特定課題研究の成果を含む。)指導体制が確認できる資料(規定、申合せ等) 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条(指導教員) 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P31～64(各専攻の「4. 研究指導及び修士論文」、「4. 修士論文」) ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 (抜粋) 学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目 (非公表) ※P1～2(E-1-14、E-1-15) ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況 (非公表) ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」(シラバス抜粋) ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料(コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別)※前述の資料と同じ

<p>教育課程連携協議会を運用していること</p>	<p>・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-4</p>	<p>修士課程の各専攻はそれぞれ修士論文の中間審査を行っている。具体的には機械創造工学専攻では1人あたり7分の発表で5分の質疑応答を行う。それに対して3人以上の聴講教員（原則として次の発表の主査（または大講座内の講師以上の教員）＋各大講座の助教（いない場合は講師以上の教員））が学生の発表を聴講し、審査を行っている。聴講教員の審査コメントについてはWeb上で入力され、審査を受けた学生が確認できる方式を取っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料</p>

<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した4年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のカリキュラムを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部3、4年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について</p> <p>根拠資料6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。 <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【活動取組6-3-A】</p>	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー ・ シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・ シラバス
分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAP制に関する規定
分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）

<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8</p> <p>教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9</p> <p>夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10</p> <p>通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
<p>分析項目6-4-11</p> <p>専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-4-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-4-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況 (別紙様式6-5-1) 別紙様式6-5-1 (工学研究科) 履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談の実施状況 (別紙様式6-5-2) 別紙様式6-5-2 (工学研究科) 学習相談の実施状況 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式6-5-3) 別紙様式6-5-3 (工学研究科) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) 根拠資料6-5-3-4 2019年度 修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 実施要領 根拠資料6-5-3-5 2019年度 修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 支援 (日本人学生対象) 要項 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P73~75 (修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 科目)
分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式6-5-4) 別紙様式6-5-4 (工学研究科) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況

<p>を行う体制を整えていること</p>	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等)を行っている場合は、その該当箇所 <p>根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版</p> <p>根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019</p> <p>根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生に対する支援(ノートテーカー等)を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況(受講者数等)が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版)</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-5-B</p>	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
<p>活動取組6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】 翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)
<p>分析項目6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件(以下「卒業(修了)要件」という。)を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準(以下「学位論文審査基準」という。)を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文(課題研究)の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P21</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/02/（修士課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-2 平成30年度 実務訓練を経験した修士2年生に対して修了時に実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」

<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

Ⅱ 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 環境社会基盤工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	
基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 環境社会基盤工学専攻）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 環境社会基盤工学専攻）

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条（指導教員） 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P31～64（各専攻の「4. 研究指導及び修士論文」、「4. 修士論文」） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 （抜粋）学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表） ※P1～2（E-1-14、E-1-15） ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況（非公表） ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」（シラバス抜粋） ・T A・R Aとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、T A・R Aの採用、活用状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ

教育課程連携協議会を運用していること	・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-3-4	<p>修士課程の各専攻はそれぞれ修士論文の中間審査を行っている。具体的には機械創造工学専攻では1人あたり7分の発表で5分の質疑応答を行う。それに対して3人以上の聴講教員（原則として次の発表の主査（または大講座内の講師以上の教員）＋各大講座の助教（いない場合は講師以上の教員））が学生の発表を聴講し、審査を行っている。聴講教員の審査コメントについてはWeb上で入力され、審査を受けた学生が確認できる方式を取っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-3-A	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料</p>

<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した4年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のカリキュラムを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部3、4年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について</p> <p>根拠資料6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。 <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【活動取組6-3-A】</p>	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー ・ シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・ シラバス
分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAP制に関する規定
分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）

<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8</p> <p>教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9</p> <p>夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10</p> <p>通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
<p>分析項目6-4-11</p> <p>専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-4-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-4-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学研究科）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2（工学研究科）学習相談の実施状況 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3（工学研究科）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等） 根拠資料6-5-3-4 2019年度 修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）実施要領 根拠資料6-5-3-5 2019年度 修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）支援（日本人学生対象）要項 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P73~75（修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）科目）
分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4（工学研究科）履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況

<p>を行う体制を整えていること</p>	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等)を行っている場合は、その該当箇所 <p>根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版</p> <p>根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019</p> <p>根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生に対する支援(ノートテーカー等)を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況(受講者数等)が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-O</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-5-B</p>	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
<p>活動取組6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） （再掲）根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋）
<p>分析項目6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P21</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/02/（修士課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-2 平成30年度 実務訓練を経験した修士2年生に対して修了時に実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 環境社会基盤工学専攻）

<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 生物機能工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	
基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143 (大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ)
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程(専門職学位課程を除く)においては、学位論文(特定の課題についての研究の成果を含む)の作成等に係る指導(以下「研究指導」という)に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文(特定課題研究の成果を含む。)指導体制が確認できる資料(規定、申合せ等) 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条(指導教員) 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P31～64 (各専攻の「4. 研究指導及び修士論文」、「4. 修士論文」) ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 (抜粋) 学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目 (非公表) ※P1～2 (E-1-14、E-1-15) ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況 (非公表) ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」(シラバス抜粋) ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料(コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別) ※前述の資料と同じ

<p>教育課程連携協議会を運用していること</p>	<p>・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-3-4</p>	<p>修士課程の各専攻はそれぞれ修士論文の中間審査を行っている。具体的には機械創造工学専攻では1人あたり7分の発表で5分の質疑応答を行う。それに対して3人以上の聴講教員（原則として次の発表の主査（または大講座内の講師以上の教員）＋各大講座の助教（いない場合は講師以上の教員））が学生の発表を聴講し、審査を行っている。聴講教員の審査コメントについてはWeb上で入力され、審査を受けた学生が確認できる方式を取っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-3-A</p>	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料</p>

<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した4年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のカリキュラムを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部3、4年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について</p> <p>根拠資料6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99 (大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ)</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。 <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【活動取組6-3-A】</p>	

改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料(学年暦、年間スケジュール等) 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料(学年暦、年間スケジュール等) (再掲) 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 (再掲) 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度(2019年度)
分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	<ul style="list-style-type: none"> シラバスの全件、全項目が確認できる資料(電子シラバスのデータ(csv)、又はURL等)、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> 教育上主要と認める授業科目(別紙様式6-4-4) シラバス
分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度(CAP制度)を適切に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> CAP制に関する規定
分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例(大学院設置基準第14条)の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 大学院学則 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条(教育方法の特例)

<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8</p> <p>教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9</p> <p>夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10</p> <p>通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
<p>分析項目6-4-11</p> <p>専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-4-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-4-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況 (別紙様式6-5-1) 別紙様式6-5-1 (工学研究科) 履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号 (2017年度版) 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談の実施状況 (別紙様式6-5-2) 別紙様式6-5-2 (工学研究科) 学習相談の実施状況 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式6-5-3) 別紙様式6-5-3 (工学研究科) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) 根拠資料6-5-3-4 2019年度 修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 実施要領 根拠資料6-5-3-5 2019年度 修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 支援 (日本人学生対象) 要項 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P73~75 (修士海外研究開発実践 (リサーチ・インターンシップ) 科目)
分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式6-5-4) 別紙様式6-5-4 (工学研究科) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況

<p>を行う体制を整えていること</p>	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等)を行っている場合は、その該当箇所 <p>根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版</p> <p>根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019</p> <p>根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生に対する支援(ノートテーカー等)を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況(受講者数等)が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-5-B</p>	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
<p>活動取組6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】 翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)
<p>分析項目6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・(個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに簡条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件(以下「卒業(修了)要件」という。)を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業(修了)判定の手順が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準(以下「学位論文審査基準」という。)を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文(課題研究)の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P21</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/02/（修士課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-2 平成30年度 実務訓練を経験した修士2年生に対して修了時に実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」

<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 情報・経営システム工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	
基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 情報・経営システム工学専攻）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 情報・経営システム工学専攻）

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条（指導教員） 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P31～64（各専攻の「4. 研究指導及び修士論文」、 「4. 修士論文」） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 (抜粋) 学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表） ※P1～2（E-1-14、E-1-15） ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況（非公表） ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」（シラバス抜粋） ・T A・R Aとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、T A・R Aの採用、活用状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ

教育課程連携協議会を運用していること	・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-3-4	<p>修士課程の各専攻はそれぞれ修士論文の中間審査を行っている。具体的には機械創造工学専攻では1人あたり7分の発表で5分の質疑応答を行う。それに対して3人以上の聴講教員（原則として次の発表の主査（または大講座内の講師以上の教員）＋各大講座の助教（いない場合は講師以上の教員））が学生の発表を聴講し、審査を行っている。聴講教員の審査コメントについてはWeb上で入力され、審査を受けた学生が確認できる方式を取っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに簡条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-3-A	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料</p>

<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した4年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のカリキュラムを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部3、4年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について</p> <p>根拠資料6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。 <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【活動取組6-3-A】</p>	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー ・ シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・ シラバス
分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAP制に関する規定
分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 情報・経営システム工学専攻）

<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<p>・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-8</p> <p>教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<p>・連携協力校との連携状況が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-9</p> <p>夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<p>・実施している配慮が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-10</p> <p>通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<p>・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所）</p> <p>・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料</p> <p>・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料</p> <p>・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-11</p> <p>専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<p>・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料</p>
<p>【特記事項】</p>	
<p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-4-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-4-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学研究科）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2（工学研究科）学習相談の実施状況 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3（工学研究科）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等） 根拠資料6-5-3-4 2019年度 修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）実施要領 根拠資料6-5-3-5 2019年度 修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）支援（日本人学生対象）要項 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P73~75（修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）科目）
分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4（工学研究科）履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況

<p>を行う体制を整えていること</p>	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等)を行っている場合は、その該当箇所 <p>根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版</p> <p>根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019</p> <p>根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生に対する支援(ノートテーカー等)を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況(受講者数等)が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-O</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-5-B</p>	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
<p>活動取組6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】 翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)
<p>分析項目6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 情報・経営システム工学専攻）

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 情報・経営システム工学専攻）

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P21</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/02/（修士課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-2 平成30年度 実務訓練を経験した修士2年生に対して修了時に実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 情報・経営システム工学専攻）

<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果 根拠資料6-8-4-6 卒業生の声（情報・経営システム工学）[Webサイト抜粋]
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 原子力システム安全工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	
基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 原子力システム安全工学専攻）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-2 学位授与の方針（修士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-2 教育課程の編成・実施の方針（修士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 原子力システム安全工学専攻）

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条（指導教員） 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P31～64（各専攻の「4. 研究指導及び修士論文」、「4. 修士論文」） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 (抜粋) 学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表） ※P1～2（E-1-14、E-1-15） ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況（非公表） ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」（シラバス抜粋） ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ

教育課程連携協議会を運用していること	・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-3-4	<p>修士課程の各専攻はそれぞれ修士論文の中間審査を行っている。具体的には機械創造工学専攻では1人あたり7分の発表で5分の質疑応答を行う。それに対して3人以上の聴講教員（原則として次の発表の主査（または大講座内の講師以上の教員）＋各大講座の助教（いない場合は講師以上の教員））が学生の発表を聴講し、審査を行っている。聴講教員の審査コメントについてはWeb上で入力され、審査を受けた学生が確認できる方式を取っている。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-3-A	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料</p>

<p>活動取組 6-3-B</p>	<p>学部・大学院の連続性に配慮した4年一貫の教育プログラムを実施するため、本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学力レベルを満たしているか、各高等専門学校のカリキュラムを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部3、4年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて修士課程への進学を促している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について</p> <p>根拠資料6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。 <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【活動取組 6-3-A】</p>	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー ・ シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・ シラバス
分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ CAP制に関する規定
分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 原子力システム安全工学専攻）

<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<p>・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-8</p> <p>教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<p>・連携協力校との連携状況が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-9</p> <p>夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<p>・実施している配慮が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-10</p> <p>通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<p>・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所）</p> <p>・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料</p> <p>・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料</p> <p>・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料</p>
<p>分析項目6-4-11</p> <p>専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<p>・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料</p>
<p>【特記事項】</p>	
<p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-4-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-4-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学研究科）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2（工学研究科）学習相談の実施状況 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3（工学研究科）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等） 根拠資料6-5-3-4 2019年度 修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）実施要領 根拠資料6-5-3-5 2019年度 修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）支援（日本人学生対象）要項 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P73~75（修士海外研究開発実践（リサーチ・インターンシップ）科目）
分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援	<ul style="list-style-type: none"> 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4（工学研究科）履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 原子力システム安全工学専攻）

<p>を行う体制を整えていること</p>	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等)を行っている場合は、その該当箇所 <p>根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版</p> <p>根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019</p> <p>根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生に対する支援(ノートテーカー等)を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況(受講者数等)が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-5-B</p>	<p>eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-B-1 eHELP組織図</p> <p>根拠資料6-5-B-2 eHELP参加校・単位互換協定校</p> <p>根拠資料6-5-B-3 eHELP単位互換協定特別聴講生受講者数一覧</p>
<p>活動取組6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国(ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語)に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材(英語版)を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ eラーニング教育の拡大と新しいeラーニング実践モデルの構築を目的に、本学が主幹校となり全国の高等教育機関38機関が協働してeラーニング教育の方法、運用実績等について検討を行っている。当該機関のうち、本学を含む4大学と26高専間が単位互換協定を締結しており、平成30年度では、本学のeラーニングコンテンツ14科目を2大学、11高専の延べ376名の学生が受講し、教育連携の取組みとして効果をあげている。【活動取組6-5-B】 ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） （再掲）根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋）
<p>分析項目6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 原子力システム安全工学専攻）

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P20(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

<p>基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 原子力システム安全工学専攻）

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P21</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-○</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/1G01/02/（修士課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-2 平成30年度 実務訓練を経験した修士2年生に対して修了時に実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 原子力システム安全工学専攻）

<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5</p> <p>就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 技術科学イノベーション専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-4 学位授与の方針（5年一貫制博士課程）[Webサイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	
基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-4 教育課程の編成・実施の方針（5年一貫制博士課程）[Webサイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 技術科学イノベーション専攻）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-4 学位授与の方針（5年一貫制博士課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-4 教育課程の編成・実施の方針（5年一貫制博士課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 技術科学イノベーション専攻）

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条（指導教員） 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P31～64（各専攻の「4. 研究指導及び修士論文」、「4. 修士論文」） ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 (抜粋) 学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表） ※P1～2（E-1-14、E-1-15） ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況（非公表） ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」（シラバス抜粋） ・T A・R Aとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、T A・R Aの採用、活用状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ

教育課程連携協議会を運用していること	・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-3-0	該当なし
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに簡条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-3-A	<p>持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料</p>
活動取組6-3-B	<p>本学の教員が、全編入学生の高専在学中の単位取得科目が、本学の専門科目の内容と学カレベルを満たしているか、各高等専門学校のシラバスを用いて照らし合わせ、相応と認めるときは「みなし上乘せ単位」として認定し、学部3、4年の専門科目及び修士課程の専門科目を先取りさせて大学院課程への進学を促している。</p>

	<p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-3-B-1 学部学生の年度始めのガイダンスにおける周知事項について</p> <p>根拠資料6-3-B-2 みなし上乘せ単位認定実績</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-4-1 学部履修案内 平成31年度 入学者用 ※P99 (大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ)</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する□欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。 <p>SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成31年度から本学の学部—大学院—貫教育システム(SDG Engineer Courseに対応)、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程(GIGAKU Innovation Courseに対応)の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。</p> <p>【活動取組6-3-A】</p>	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 技術科学イノベーション専攻）

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-4-1</p> <p>1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
<p>分析項目6-4-2</p> <p>各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー ・シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-4-3</p> <p>適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
<p>分析項目6-4-4</p> <p>教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・シラバス
<p>分析項目6-4-5</p> <p>専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6</p> <p>大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）
<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料

長岡技術科学大学 領域6 (工学研究科 技術科学イノベーション専攻)

分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること	・連携協力校との連携状況が確認できる資料
分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること	・実施している配慮が確認できる資料
分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-4-〇	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料</u> とともに <u>箇条書き</u> で記述すること。	
活動取組6-4-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-5-1</p> <p>学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学研究科）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-2</p> <p>学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2（工学研究科）学習相談の実施状況 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3</p> <p>社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3（工学研究科）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P6（3.1 必修科目）
<p>分析項目6-5-4</p> <p>障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4（工学研究科）履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き 留学生に対する外国語による情報提供（時間割、シラバス等）を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表（大学院）英語版 根拠資料6-5-4-2 英文履修案内（大学院）2019 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 （再掲）根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック 2018 障害のある学生に対する支援（ノートテーカー等）を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック（平成31年3月）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 技術科学イノベーション専攻）

	<ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況（受講者数等）が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版）</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-5-0	該当なし
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-5-F	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組6-5-F】</p>	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-6-1 成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)
分析項目6-6-2 成績評価基準を学生に周知していること	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)
分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P3(4 試験、成績評価等 (7)) ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・(個人指導等が中心となる科目の場合)成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P3(4 試験、成績評価等 (7)) ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-6-3	各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。
分析項目6-6-4	平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 技術科学イノベーション専攻）

	師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 根拠資料 とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-6-A	平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価（科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている）を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。 【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について
活動取組6-6-B	平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準を策定した。 【根拠資料】 根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPAの導入に係る運用方法、及びCAP制の試行運用について
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 ・ 該当なし	
改善を要する事項 ・ 該当なし	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-7-1 大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること	<ul style="list-style-type: none"> 卒業又は修了の要件を定めた規定 根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 （再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 技術科学イノベーション専攻）

<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>
<p>分析項目6-7-3</p> <p>策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋）</p> <p>（再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P7</p>
<p>分析項目6-7-4</p> <p>卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要</p> <p>根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>（再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料

【特記事項】

①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。

分析項目 6-7-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料</u> とともに簡条書きで記述すること。	
活動取組 6-7-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準 6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目 6-8-1 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式 6-8-1） ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式 6-8-1） 別紙様式 6-8-1（工学研究科）標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 ・ 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料 6-8-1-1 平成 29 年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 ・ 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料 6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Web サイト抜粋）
分析項目 6-8-2 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学（進学希望者に対する進学者の割合）の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式 6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式 6-8-2（工学研究科）就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 ・ 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポートレートにある場合は該当URL） https://portraits.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/0432-3G01-02-01.html（5年一貫制博士課程） ・ 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 技術科学イノベーション専攻）

	根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-2 平成30年度 実務訓練を経験した修士2年生に対して修了時に実施したアンケート結果 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」
分析項目6-8-4 卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-8-〇	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 <u>根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</u>	
活動取組6-8-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 情報・制御工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-3 学位授与の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-3 教育課程の編成・実施の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-3 学位授与の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-3 教育課程の編成・実施の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 情報・制御工学専攻）

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条（指導教員） 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P136～142 ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 （抜粋）学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表） ※P1～2（E-1-14、E-1-15） ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況（非公表） ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」（シラバス抜粋） ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ

・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料

【特記事項】

①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。

分析項目6-3-0

該当なし

②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。

活動取組6-3-A

持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産金学連携の構築が進展している。

【根拠資料】

[根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料](#)

【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）

当該基準を満たす

当該基準を満たさない

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部一大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。

【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲） 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 情報・制御工学専攻）

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・シラバス
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を

備され、指導が行われていること	<p>確保するための方法について確認できる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-4-0	該当なし
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-4-A	該当なし
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
優れた成果が確認できる取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし
改善を要する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-5-1 学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること	<ul style="list-style-type: none"> ・履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） 別紙様式6-5-1（工学研究科）履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） ・通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料

<p>分析項目6-5-2</p> <p>学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2（工学研究科）学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3</p> <p>社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3（工学研究科）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等）
<p>分析項目6-5-4</p> <p>障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4（工学研究科）履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供（時間割、シラバス等）を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表（大学院）英語版 根拠資料6-5-4-2 英文履修案内（大学院）2019 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 （再掲）根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018 ・障害のある学生に対する支援（ノートテーカー等）を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック（平成31年3月） ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況（受講者数等）が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	

<p>活動取組 6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料 6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料 6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料 6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料 6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料 6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組 6-5-F】</p>	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

<p>基準 6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目 6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 <p>（再掲）根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）</p> <p>（再掲）根拠資料 6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋）</p>
<p>分析項目 6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

<p>基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-8-1 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
分析項目6-8-2 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/4G01/02/（博士後期課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」
分析項目6-8-4	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概

<p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>要及びその結果が確認できる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

Ⅱ 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 材料工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-3 学位授与の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-3 教育課程の編成・実施の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-3 学位授与の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-3 教育課程の編成・実施の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条（指導教員） 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P136～142 ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 （抜粋）学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表） ※P1～2（E-1-14、E-1-15） ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況（非公表） ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」（シラバス抜粋） ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲）根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ

・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料

【特記事項】

①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。

分析項目6-3-0

該当なし

②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。

活動取組6-3-A

持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。

【根拠資料】

[根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料](#)

【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）

■ 当該基準を満たす

□ 当該基準を満たさない

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。

【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲）根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲）根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・シラバス
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を

備され、指導が行われていること	<p>確保するための方法について確認できる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-4-0	該当なし
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-4-A	該当なし
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-5-1</p> <p>学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 履修指導の実施状況(別紙様式6-5-1) 別紙様式6-5-1 (工学研究科) 履修指導の実施状況 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版) 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料

<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2 (工学研究科) 学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3 (工学研究科) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等）
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4 (工学研究科) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版) ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供（時間割、シラバス等）を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版 根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 （再掲）根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018 ・障害のある学生に対する支援（ノートテーカー等）を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月) ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況（受講者数等）が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	

<p>活動取組 6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料 6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料 6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料 6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料 6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料 6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組 6-5-F】</p>	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

<p>基準 6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目 6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 <p>（再掲）根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）</p> <p>（再掲）根拠資料 6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋）</p>
<p>分析項目 6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-○</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-8-1 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1 工学研究科 標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
分析項目6-8-2 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2 工学研究科 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/4G01/02/（博士後期課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」
分析項目6-8-4	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概

<p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>要及びその結果が確認できる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 エネルギー・環境工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-3 学位授与の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-3 教育課程の編成・実施の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 エネルギー・環境工学専攻）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-3 学位授与の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-3 教育課程の編成・実施の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	博士課程の教育課程方針については、現在、公表されていない状況であるが、平成30年度末の公表に向けて、学内の手続きを進めているところである。
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6 (工学研究科 エネルギー・環境工学専攻)

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度 (2019年度)</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143 (大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ)
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程(専門職学位課程を除く)においては、学位論文(特定の課題についての研究の成果を含む)の作成等に係る指導(以下「研究指導」という)に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文(特定課題研究の成果を含む)指導体制が確認できる資料(規定、申合せ等) 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条(指導教員) 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P136～142 ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 (抜粋) 学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目(非公表) ※P1～2 (E-1-14、E-1-15) ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況(非公表) ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」(シラバス抜粋) ・TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料 (再掲) 根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 (再掲) 根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料(コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別)※前述の資料と同じ

・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料

【特記事項】

①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。

分析項目6-3-0

該当なし

②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。

活動取組6-3-A

持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産金学連携の構築が進展している。

【根拠資料】

[根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料](#)

【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）

当該基準を満たす

当該基準を満たさない

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。

【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲） 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー

長岡技術科学大学 領域6 (工学研究科 エネルギー・環境工学専攻)

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス (再掲) 根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度(2019年度)
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料(電子シラバスのデータ(csv)、又はURL等)、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目(別紙様式6-4-4) ・シラバス
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度(CAP制度)を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例(大学院設置基準第14条)の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条(教育方法の特例)
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業(スクーリングを含む。)若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法(同時性・非同時性、双方向性・非双方向性)について確認できる資料(シラバス、履修要項、教材等の該当箇所) ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を

長岡技術科学大学 領域6 (工学研究科 エネルギー・環境工学専攻)

備され、指導が行われていること	<p>確保するための方法について確認できる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・ 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-4-0	該当なし
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-4-A	該当なし
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-5-1</p> <p>学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況(別紙様式6-5-1) ・ 別紙様式6-5-1 (工学研究科) 履修指導の実施状況 ・ 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 ・ (再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版) ・ 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料

長岡技術科学大学 領域6 (工学研究科 エネルギー・環境工学専攻)

<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2 (工学研究科) 学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3 (工学研究科) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等）
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4 (工学研究科) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版) ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供（時間割、シラバス等）を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表(大学院)英語版 根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 （再掲）根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018 ・障害のある学生に対する支援（ノートテーカー等）を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月) ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況（受講者数等）が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	

<p>活動取組 6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料 6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料 6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料 6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料 6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料 6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組 6-5-F】</p>	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

<p>基準 6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目 6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 <p>(再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）</p> <p>(再掲) 根拠資料 6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋）</p>
<p>分析項目 6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 エネルギー・環境工学専攻）

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表） 〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 （再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程 審査及び試験に合格した学生の学位論文 根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-8-1 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1（工学研究科）標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
分析項目6-8-2 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2（工学研究科）就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/4G01/02/（博士後期課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」
分析項目6-8-4	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 エネルギー・環境工学専攻）

<p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>要及びその結果が確認できる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

II 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：工学研究科 生物統合工学専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-3 学位授与の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-3 教育課程の編成・実施の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋] 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋） （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-3 学位授与の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-3 教育課程の編成・実施の方針（博士後期課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 生物統合工学専攻）

	<p>根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）</p>
<p>分析項目6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明文化された規定類 （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第42条～第44条、第66条～第68条 （再掲） 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P143（大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ）
<p>分析項目6-3-4</p> <p>大学院課程（専門職学位課程を除く）においては、学位論文（特定の課題についての研究の成果を含む）の作成等に係る指導（以下「研究指導」という）に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（規定、申合せ等） 根拠資料6-3-4-1 長岡技術科学大学教育組織規則 ※第7条（指導教員） 根拠資料6-3-4-2 長岡技術科学大学教育組織規則の運用について （再掲） 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P136～142 ・ 研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 根拠資料6-3-4-3 （抜粋）学生が書いた研究室ガイドブック 2019 ・ 国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 （再掲） 根拠資料2-5-2-3 長岡技術科学大学教員評価項目（非公表） ※P1～2（E-1-14、E-1-15） ・ 他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 根拠資料6-3-4-4 長岡技術科学大学における大学院の学生の研究指導の委託及び受託に関する規則 根拠資料6-3-4-5 特別研究生委託状況（非公表） ・ 研究倫理に関する指導が確認できる資料 根拠資料6-3-4-6 授業科目「研究倫理」（シラバス抜粋） ・ TA・RAとしての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RAの採用、活用状況が確認できる資料 （再掲） 根拠資料2-5-5-4 平成30年度第1学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲） 根拠資料2-5-5-5 平成30年度第2学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲） 根拠資料2-5-5-6 平成30年度第3学期ティーチング・アシスタント実施計画書 （再掲） 根拠資料2-5-6-1 ティーチング・アシスタント採用ガイダンス出席者配布資料
<p>分析項目6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別）※前述の資料と同じ

・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料

【特記事項】

①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。

分析項目6-3-0

該当なし

②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。

活動取組6-3-A

持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産金学連携の構築が進展している。

【根拠資料】

[根拠資料6-3-A-1 SDGs説明資料](#)

【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）

当該基準を満たす

当該基準を満たさない

優れた成果が確認できる取組

・ 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成30年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）におけるSDGゴール9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学はSDGsの17のゴールそれぞれに世界で1大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでのSDGsに係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGsの解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連するSDGsの明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議STI-Gigakuを平成27年度から主催し、毎年国内外から200人以上が参加している。また、親子向けSDGs教育ゲームを開発し（平成29年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成29年度には、SDGs課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学SDGインスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成30年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成31年度から本学の学部－大学院一貫教育システム（SDG Engineer Courseに対応）、SDGプロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院5年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Courseに対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標であるSDGs達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成30年度に10か国の高等教育機関が集ったPanel on GIGAKU Educationの議論に基づき、SDGsにフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

加えて、平成30年度には全国の大学で初となるSDGs広報担当学長補佐を任命し、本学のSDGsへの積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められるSDGsの重要性の社会への啓発に力を注いでいる。

SDGハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGsへの取組を通じた産学金学連携の構築が進展している。

【活動取組6-3-A】

改善を要する事項

・ 該当なし

基準6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-4-1 1年間の授業を行う期間が原則として35週にわたるものとなっていること	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー
分析項目6-4-2 各科目の授業期間が10週又は15週にわたるものとなっていること。なお、10週又は15週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10週又は15	・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） （再掲） 根拠資料6-4-1-1 平成31年度 学年暦 （再掲） 根拠資料6-4-1-2 平成31年度 授業カレンダー

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 生物統合工学専攻）

<p>週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス （再掲）根拠資料6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成31年度（2019年度）
<p>分析項目6-4-3 適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又はURL等）、学生便覧等関係資料 根拠資料6-4-3-2 2019年度大学院シラバス （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
<p>分析項目6-4-4 教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育上主要と認める授業科目（別紙様式6-4-4） ・シラバス
<p>分析項目6-4-5 専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP制度）を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CAP制に関する規定
<p>分析項目6-4-6 大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例）
<p>分析項目6-4-7 薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8 教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9 夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10 通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を

長岡技術科学大学 領域6（工学研究科 生物統合工学専攻）

備され、指導が行われていること	<p>確保するための方法について確認できる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・ 教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
分析項目6-4-11 専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
分析項目6-4-0	該当なし
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
活動取組6-4-A	該当なし
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-5-1</p> <p>学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況（別紙様式6-5-1） ・ 別紙様式6-5-1（工学研究科）履修指導の実施状況 ・ 根拠資料6-5-1-1 単位互換状況 ・ （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） ・ 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料

<p>分析項目6-5-2 学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習相談の実施状況（別紙様式6-5-2） 別紙様式6-5-2（工学研究科）学習相談の実施状況 ・通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目6-5-3 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組（別紙様式6-5-3） 別紙様式6-5-3（工学研究科）社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料（実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等）
<p>分析項目6-5-4 障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援を行う体制を整えていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況（別紙様式6-5-4） 別紙様式6-5-4（工学研究科）履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版） ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き ・留学生に対する外国語による情報提供（時間割、シラバス等）を行っている場合は、その該当箇所 根拠資料6-5-4-1 平成31年度時間割表（大学院）英語版 根拠資料6-5-4-2 英文履修案内（大学院）2019 根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018 （再掲）根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018 ・障害のある学生に対する支援（ノートテーカー等）を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック（平成31年3月） ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況（受講者数等）が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 （再掲）根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号（2017年度版）
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに簡条書きで記述すること。</p>	

<p>活動取組 6-5-F</p>	<p>翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。</p> <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-5-F-1 専門用語辞典</p> <p>根拠資料 6-5-F-2 機械工学で学ぶ中級日本語</p> <p>根拠資料 6-5-F-3 機械工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料 6-5-F-4 建設工学で学ぶ中級日本語1</p> <p>根拠資料 6-5-F-5 建設工学で学ぶ中級日本語2</p> <p>根拠資料 6-5-F-6 これから工学を学ぶ留学生のためのにほんご練習帳</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 翻訳が難しい専門用語を、8カ国（ベトナム語、タイ語、マレー語、中国語、スペイン語、インドネシア語、韓国語、モンゴル語）に翻訳した工学系日本語教材を開発した。 <p>また、文部科学省の事業の採択に伴い、「機械工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」、「建設工学で学ぶ中級日本語(1)(2)」の日本語教材（英語版）を作成し、さらにスペイン語への翻訳を進め、日本・メキシコ双方を学修支援し、英語を含むトライリンガルな技術者の育成を進めている。【活動取組 6-5-F】</p>	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

<p>基準 6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>
<p>分析項目 6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準 <p>（再掲）根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価）</p> <p>（再掲）根拠資料 6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度（成績評価抜粋）</p>
<p>分析項目 6-6-2</p>	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該

<p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<p>当箇所 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋)</p>
<p>分析項目6-6-3 成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・ 成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80(4 試験、成績評価等 (7)) ・ GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料6-2-1-6 大学院履修案内 平成31年度(成績評価抜粋) ・ (個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4 成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80(4 試験、成績評価等 (7)) ・ 申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・ 成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>簡条書き</u>で記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】 根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
<p>活動取組6-6-B</p>	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準</p>

	<p>を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPA の導入に係る運用方法、及びCAP 制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策定されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p> <p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>

<p>分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所 <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P80</p>
<p>分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教授会等での審議状況等の資料 <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要 根拠資料6-7-4-2 審査委員候補者名簿（平成30年8月修了予定者）（非公表）</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等 <p>（再掲）根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程 （再掲）根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ （再掲）根拠資料6-7-2-3 論文博士の学位審査手順に関する申合せ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-4-3 平成30年度 大学院工学研究科 学位論文審査日程</p> <ul style="list-style-type: none"> 審査及び試験に合格した学生の学位論文 <p>根拠資料6-7-4-4 審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
<p>分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-7-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-7-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する□欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	

優れた成果が確認できる取組
・ 該当なし
改善を要する事項
・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-8-1 標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1（工学研究科）標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
分析項目6-8-2 就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	<ul style="list-style-type: none"> 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2（工学研究科）就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/4G01/02/（博士後期課程） 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
分析項目6-8-3 卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-5 平成30年度 各種能力の修得度等自己評価アンケート（大学院） 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」
分析項目6-8-4	<ul style="list-style-type: none"> 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概

<p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<p>要及びその結果が確認できる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時） <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
<p>分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 <ul style="list-style-type: none"> 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-8-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-8-A</p>	<p>該当なし</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

Ⅱ 基準ごとの自己評価

領域6 教育課程と学習成果に関する基準

学部・研究科名：技術経営研究科 システム安全専攻

基準6-1 学位授与方針が具体的かつ明確であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-1-1 学位授与方針を、大学等の目的を踏まえて、具体的かつ明確に策定していること	・ 公表された学位授与方針 根拠資料6-1-1-5 学位授与の方針（専門職学位課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-1-1	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-1-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
・ 該当なし	
改善を要する事項	
・ 該当なし	

基準6-2 教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-2-1 教育課程方針において、学生や授業科目を担当する教員が解り易いように、①教育課程の編成の方針、②教育課程における教育・学習方法に関する方針、③学習成果の評価の方針を明確かつ具体的に明示していること	・ 公表された教育課程方針 根拠資料6-2-1-5 教育課程の編成・実施の方針（専門職学位課程）[Web サイト抜粋] （再掲） 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条（成績の評価） （再掲） 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P121（成績評価の方法）

分析項目6-2-2 教育課程方針が学位授与方針と整合性を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 公表された教育課程方針及び学位授与方針 (再掲) 根拠資料6-1-1-5 学位授与の方針（専門職学位課程）[Web サイト抜粋] (再掲) 根拠資料6-2-1-5 教育課程の編成・実施の方針（専門職学位課程）[Web サイト抜粋]
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-2-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-2-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	
改善を要する事項	
<ul style="list-style-type: none"> 該当なし 	

基準6-3 教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
分析項目6-3-1 教育課程の編成が、体系的を有していること	<ul style="list-style-type: none"> 体系的が確認できる資料（カリキュラム・マップ、コース・ツリー、ナンバリング等） 根拠資料6-3-1-1 長岡技術科学大学科目ナンバリングガイド平成30年度（2018年度） 授業科目の開設状況が確認できる資料（コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別） (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度
分析項目6-3-2 授業科目の内容が、授与する学位に相応しい水準となっていること	<ul style="list-style-type: none"> 分野別第三者評価の結果 日本学術会議による参照基準等に準拠した内容になっていることが確認できる資料 シラバス その他自己点検・評価において体系的や水準に関する検証を実施している場合はその状況がわかる資料

長岡技術科学大学 領域6 (技術経営研究科 システム安全専攻)

	根拠資料 6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成 31 年度 (2019 年度)
<p>分析項目 6-3-3</p> <p>他の大学又は大学以外の教育施設等における学習、入学前の既修得単位等の単位認定を行っている場合、認定に関する規定を法令に従い規則等で定めていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・明文化された規定類 (再掲) 根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 42 条～第 44 条、第 66 条～第 68 条 (再掲) 根拠資料 2-2-4-2 大学院履修案内 平成 31 年度 ※P143 (大学等で修得した単位及び大学以外の教育施設等における学修の成果の取扱いに関する申合せ)
<p>分析項目 6-3-4</p> <p>大学院課程 (専門職学位課程を除く) においては、学位論文 (特定の課題についての研究の成果を含む) の作成等に係る指導 (以下「研究指導」という) に関し、指導教員を明確に定めるなどの指導体制を整備し、計画を策定した上で指導することとしていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究指導、学位論文 (特定課題研究の成果を含む。) 指導体制が確認できる資料 (規定、申合せ等) ・研究指導計画書、研究指導報告書等、指導方法が確認できる資料 ・国内外の学会への参加を促進している場合は、その状況が確認できる資料 ・他大学や産業界との連携により、研究指導を実施している場合は、その状況が確認できる資料 ・研究倫理に関する指導が確認できる資料 ・TA・RA としての活動を通じた能力の育成、教育的機能の訓練を行っている場合は、TA・RA の採用、活用状況が確認できる資料
<p>分析項目 6-3-5</p> <p>専門職学科を設置している場合は、法令に則して、教育課程が編成されるとともに、教育課程連携協議会を運用していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業科目の開設状況が確認できる資料 (コース、教養・専門基礎・専門等の分類、年次配当、必修・選択等の別) ※前述の資料と同じ ・教育課程連携協議会の設置・運用に関する規定及び開催実績・内容が確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を 400 字以内で記述すること。</p>	
分析項目 6-3-0	該当なし
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、<u>根拠資料</u>とともに<u>箇条書き</u>で記述すること。</p>	
活動取組 6-3-A	<p>持続可能な開発目標 (SDGs) に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成 30 年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト (UNAI) における SDG ゴール 9 (産業と技術革新の基盤を作ろう) の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学は SDGs の 17 のゴールそれぞれに世界で 1 大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでの SDGs に係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。</p> <p>SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し (平成 29 年度: サイエンスアゴラ賞を受賞)、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。</p> <p>平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系</p>

	<p>大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。</p> <p>認定を受け、平成 31 年度から本学の学部－大学院－貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院 5 年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。</p> <p>さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。</p> <p>加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産金学連携の構築が進展している。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料 6-3-A-1 SDGs 説明資料</p>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）

- 当該基準を満たす
- 当該基準を満たさない

優れた成果が確認できる取組

- 持続可能な開発目標（SDGs）に関連する革新的な取組の模範となる大学として、平成 30 年度に国連本部から国連アカデミック・インパクト（UNAI）における SDG ゴール 9（産業と技術革新の基盤を作ろう）の世界ハブ大学に任命された。ハブ大学は SDGs の 17 のゴールそれぞれに世界で 1 大学のみを国連が選出するもので、本学は日本を含む東アジアから唯一の選出となった。選出に当たっては本学のこれまでの SDGs に係る下記の取組が高い評価を受ける要因となった。

SDGs の解決につながる教育活動の推進のため、「発表に関連する SDGs の明示」「英語での発表」を義務付けた国際会議 STI-Gigaku を平成 27 年度から主催し、毎年国内外から 200 人以上が参加している。また、親子向け SDGs 教育ゲームを開発し（平成 29 年度：サイエンスアゴラ賞を受賞）、自治体等からの依頼に基づき教材を提供するなど、SDGs 解決のための教育活動を広く社会に対して積極的に展開している。

平成 29 年度には、SDGs 課題解決と実践的エンジニア教育を柱とする人材育成プログラム「技学 SDG インスティテュート」の設立をユネスコに申請し、平成 30 年度に日本の工学系大学として初となるユネスコチェアプログラムに認定された。

認定を受け、平成 31 年度から本学の学部－大学院－貫教育システム（SDG Engineer Course に対応）、SDG プロフェッショナルコース（SDG Professional Course）、大学院 5 年一貫性博士課程（GIGAKU Innovation Course に対応）の各コースにおいて、次世代のエンジニアに必要な国際社会の共通目標である SDGs 達成を根幹に位置付けた本プログラムを本格実施するため、カリキュラムの改正等に取り組んでいる。

さらに、平成 30 年度に 10 か国の高等教育機関が集った Panel on GIGAKU Education の議論に基づき、SDGs にフォーカスした本プログラムを複数国の複数大学から構成させる世界的な教育ネットワーク「ユニツイン」として世界に展開するため、各国の大学とともにユネスコへの申請準備を進めている。

<p>加えて、平成 30 年度には全国の大学で初となる SDGs 広報担当学長補佐を任命し、本学の SDGs への積極的な取組の広報を通じ、社会の中の大学の責任として求められる SDGs の重要性の社会への啓発に力を注いでいる。</p> <p>SDG ハブ大学選出が報道機関で広く取り上げられたのを機に、ESG（環境、社会、ガバナンス）経営を重視する国内大手金融機関・企業等の注目を集め、SDGs への取組を通じた産学金連携の構築が進展している。【活動取組 6-3-A】</p>
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 該当なし

基準 6-4 学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目 6-4-1</p> <p>1 年間の授業を行う期間が原則として 35 週にわたるものとなっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） <p>根拠資料 6-4-1-1 平成 31 年度 学年暦</p> <p>根拠資料 6-4-1-2 平成 31 年度 授業カレンダー</p>
<p>分析項目 6-4-2</p> <p>各科目の授業期間が 10 週又は 15 週にわたるものとなっていること。なお、10 週又は 15 週と異なる授業期間を設定する場合は、教育上の必要があり、10 週又は 15 週を期間として授業を行う場合と同等以上の十分な教育効果をあげていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料（学年暦、年間スケジュール等） <p>（再掲）根拠資料 6-4-1-1 平成 31 年度 学年暦</p> <p>（再掲）根拠資料 6-4-1-2 平成 31 年度 授業カレンダー</p> <ul style="list-style-type: none"> シラバス <p>（再掲）根拠資料 6-3-2-2 大学院授業科目概要 Syllabus 平成 31 年度（2019 年度）</p>
<p>分析項目 6-4-3</p> <p>適切な授業形態、学習指導法が採用され、授業の方法及び内容が学生に対して明示されていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> シラバスの全件、全項目が確認できる資料（電子シラバスのデータ（csv）、又は URL 等）、学生便覧等関係資料 <p>根拠資料 6-4-3-2 2019 年度大学院シラバス</p> <p>（再掲）根拠資料 2-2-4-2 大学院履修案内 平成 31 年度</p>
<p>分析項目 6-4-4</p> <p>教育上主要と認める授業科目は、原則として専任の教授・准教授が担当していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育上主要と認める授業科目（別紙様式 6-4-4） シラバス
<p>分析項目 6-4-5</p> <p>専門職大学院を設置している場合は、履修登録の上限設定の制度（CAP 制度）を適切に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> CAP 制に関する規定 <p>（再掲）根拠資料 1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第 41 条、第 65 条</p> <p>（再掲）根拠資料 2-2-4-2 大学院履修案内 平成 31 年度 ※P120~121</p>

長岡技術科学大学 領域6（技術経営研究科 システム安全専攻）

<p>分析項目6-4-6</p> <p>大学院において教育方法の特例（大学院設置基準第14条）の取組として夜間その他特定の時間又は期間に授業を行っている場合は、法令に則した実施方法となっていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院学則 （再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第63条（教育方法の特例） （再掲）根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P124（授業の方法） （再掲）根拠資料4-1-1-1 システム安全専攻 平成30年度 授業日程 （再掲）根拠資料4-1-1-2 長岡技術科学大学東京サテライトキャンパスについて
<p>分析項目6-4-7</p> <p>薬学に関する学部又は学科のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするものを設置している場合は、必要な施設を確保し、薬学実務実習を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学実務実習に必要な施設の状況及び実習の実施状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-8</p> <p>教職大学院を設置している場合は、連携協力校を確保していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連携協力校との連携状況が確認できる資料
<p>分析項目6-4-9</p> <p>夜間において授業を実施している課程を置いている場合は、配慮を行っていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施している配慮が確認できる資料
<p>分析項目6-4-10</p> <p>通信教育を行う課程を置いている場合は、印刷教材等による授業、放送授業、面接授業（スクーリングを含む。）若しくはメディアを利用して行う授業の実施方法が整備され、指導が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の実施方法（同時性・非同時性、双方向性・非双方向性）について確認できる資料（シラバス、履修要項、教材等の該当箇所） ・添削等による指導、質問の受付、チューターの利用、学生間のコミュニケーション等、対面授業と同等以上の教育効果を確保するための方法について確認できる資料 ・電話・郵便・電子メール等による教育相談、助言体制及びそれらを周知する資料、ウェブサイトによる情報提供等の実施体制及び実施状況が確認できる資料 ・教育相談、助言の利用実績が確認できる資料
<p>分析項目6-4-11</p> <p>専門職学科を設置している場合は、授業を行う学生数が法令に則していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・法令に則した授業を行う学生数に関して、規定や申し合わせ等組織として決定していることが確認できる資料
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-4-〇</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	

活動取組 6-4-A	該当なし
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準 6-5 学位授与方針に則して適切な履修指導、支援が行われていること	
分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目 6-5-1</p> <p>学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修指導の実施状況 (別紙様式 6-5-1) ・ 別紙様式 6-5-1 (技術経営研究科) 履修指導の実施状況 ・ 根拠資料 6-5-1-1 単位互換状況 ・ 通信教育を行う課程を置いている場合は、履修指導の体制が確認できる資料
<p>分析項目 6-5-2</p> <p>学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習相談の実施状況 (別紙様式 6-5-2) ・ 別紙様式 6-5-2 (技術経営研究科) 学習相談の実施状況 ・ 通信教育を行う課程を置いている場合は、学習相談の体制が確認できる資料
<p>分析項目 6-5-3</p> <p>社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組を実施していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 (別紙様式 6-5-3) ・ 別紙様式 6-5-3 (技術経営研究科) 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組 ・ インターンシップを実施している場合は、その実施状況が確認できる資料 (実施要項、提携・受入企業、派遣・単位認定実績等) ・ 根拠資料 6-5-3-6 長岡技術科学大学専門職大学院技術経営研究科システム安全専攻 2018 専攻案内 ※P18 (実務訓練)
<p>分析項目 6-5-4</p> <p>障害のある学生、留学生、その他履修上特別な支援を要する学生に対する学習支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況 (別紙様式 6-5-4) ・ 別紙様式 6-5-4 (技術経営研究科) 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況

<p>を行う体制を整えていること</p>	<p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チューター等を配置している場合は、その制度や配置状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-F-1 チューターの手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生に対する外国語による情報提供(時間割、シラバス等)を行っている場合は、その該当箇所 <p>根拠資料6-5-4-2 英文履修案内(大学院)2019</p> <p>根拠資料6-5-4-3 Student Life Guidebook 2018</p> <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-2 留学生のためのガイドブック2018</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある学生に対する支援(ノートテーカー等)を行っている場合は、その制度や実施状況が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-4-2 悩みがある、障がいがある学生のサポートブック(平成31年3月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別クラス、補習授業を開設している場合は、その実施状況(受講者数等)が確認できる資料 ・学習支援の利用実績が確認できる資料 <p>(再掲) 根拠資料4-2-3-1 長岡技術科学大学国際連携センター年報第7号(2017年度版)</p>
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-5-0</p>	<p>該当なし</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。(該当する口欄をチェック■)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

<p>基準6-6 教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること</p>	
<p>分析項目</p>	<p>分析項目に係る根拠資料・データ欄</p>

長岡技術科学大学 領域6（技術経営研究科 システム安全専攻）

<p>分析項目6-6-1</p> <p>成績評価基準を学位授与方針及び教育課程方針に則して定められている学習成果の評価の方針と整合性をもって、組織として策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準 (再掲) 根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第45条(成績の評価) (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P121(成績評価の方法)
<p>分析項目6-6-2</p> <p>成績評価基準を学生に周知していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料等の該当箇所 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P121(成績評価の方法)
<p>分析項目6-6-3</p> <p>成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の分布表 根拠資料6-6-3-1 各科目分類での成績評価の評定別の比率分布表(平成30年度) ・成績評価分布等のデータを関係委員会等で確認するなど組織的に確認していることに関する資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P121(8. 成績評価の方法 (6)) ・GPA制度の目的と実施状況についてわかる資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P121(成績評価の方法) ・(個人指導等が中心となる科目の場合) 成績評価の客観性を担保するための措置についてわかる資料
<p>分析項目6-6-4</p> <p>成績に対する異議申立て制度を組織的に設けていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 ※P121(8. 成績評価の方法 (6)) ・申立ての内容及びその対応、申立ての件数等の資料・データ ・成績評価の根拠となる資料(答案、レポート、出席記録等)
<p>【特記事項】</p> <p>①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。</p>	
<p>分析項目6-6-3</p>	<p>各教員には学生情報システムを通じて、担当科目の成績分布のデータを提供しており、教員が担当科目の成績評価の分布を確認する機会を設けている。平成31年4月には学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。</p>
<p>分析項目6-6-4</p>	<p>平成31年4月に学生からの成績に関する異議を受け付ける窓口として、制度を整備し、学務課に窓口を設置して教員以外にも申し出る方法を履修案内等で学生に周知を行っている。これまで学生が事務局に相談にきたものについて、特に記録はしていなかったが、成績について相談に来た場合は、教員に確認するようにと指示をし、授業担当教員が非常勤講師で、電話番号等を公開していなかったケースでは、事務局で非常勤講師に連絡を取り、学生に理由説明を行っていた。</p>
<p>②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。</p>	
<p>活動取組6-6-A</p>	<p>平成26年度から、成績評価基準の区分を見直し、ABCDの4段階評価にS評価(科目の目標を十分に達成し極めて優秀な成績を修めている)を追加し、SABCDの5段階評価に変更</p>

	<p>した。各区分評価の意味を履修案内に表記し評価基準を明確化した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-A-1 GPAの導入について</p>
活動取組6-6-B	<p>平成26年度から、国際的成績評価の適合を目的としたGPA制度及び学生の十分な修学時間を確保するためのCAP制度の運用を開始した。また、成績不振の学生に対する指導基準を策定した。</p> <p>【根拠資料】</p> <p>根拠資料6-6-B-1 成績評価の変更、GPAの導入に係る運用方法、及びCAP制の試行運用について</p>
<p>【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす</p> <p><input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない</p>	
<p>優れた成果が確認できる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
<p>改善を要する事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

基準6-7 大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業（修了）判定が実施されていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-7-1</p> <p>大学等の目的及び学位授与方針に則して、卒業又は修了の要件（以下「卒業（修了）要件」という。）を組織的に策定していること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 <p>根拠資料6-7-1-1 長岡技術科学大学長期履修学生規則 ※第3条</p> <p>（再掲）根拠資料1-3-1-1 長岡技術科学大学学則 ※第46条、第69条、第69条の2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料 <p>（再掲）根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p>
<p>分析項目6-7-2</p> <p>大学院教育課程においては、学位論文又は特定の課題についての研究の成果の審査に係る手続き及び評価の基準（以下「学位論文審査基準」という。）を組織として策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学位論文（課題研究）の審査に係る手続き及び評価の基準 ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料 <p>根拠資料6-7-2-1 長岡技術科学大学学位審査取扱規程</p>

長岡技術科学大学 領域6（技術経営研究科 システム安全専攻）

定されていること	<p>根拠資料6-7-2-2 長岡技術科学大学学位審査取扱規程の運用に関する申合せ</p> <p>(再掲) 根拠資料1-3-2-1 長岡技術科学大学教授会規則 ※第3条</p> <p>(再掲) 根拠資料2-1-2-1 長岡技術科学大学学位規則</p>
分析項目6-7-3 策定した卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）を学生に周知していること	<p>・卒業（修了）要件を学生に周知していることを示すものとして、学生便覧、シラバス、オリエンテーションの配布資料、ウェブサイトへの掲載等の該当箇所</p> <p>根拠資料6-7-3-1 卒業・修了要件単位（Web サイト抜粋）</p> <p>(再掲) 根拠資料2-2-4-2 大学院履修案内 平成31年度 P121（9. 課程の修了）</p>
分析項目6-7-4 卒業又は修了の認定を、卒業（修了）要件（学位論文評価基準を含む）に則して組織的に実施していること	<p>・教授会等での審議状況等の資料</p> <p>根拠資料6-7-4-1 平成30年度第16回教務委員会議事概要</p> <p>〈専門職学位課程を除く大学院課程の分析〉</p> <p>・学位論文（特定課題研究の成果を含む。）に係る評価基準、審査手続き等</p> <p>・学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料</p> <p>・審査及び試験に合格した学生の学位論文</p>
分析項目6-7-5 専門職学科を設置している場合は、法令に則して卒業要件が定められていること	<p>・法令に則した卒業要件が組織として定められていることが確認できる資料</p>
【特記事項】	
①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-7-0	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、 根拠資料 とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-7-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■）	
<input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	

改善を要する事項

- ・ 該当なし

基準6-8 大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

分析項目	分析項目に係る根拠資料・データ欄
<p>分析項目6-8-1</p> <p>標準修業年限内の卒業（修了）率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 標準修業年限内の卒業（修了）率（※1）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（※2）（過去5年分）（別紙様式6-8-1） 別紙様式6-8-1（技術経営研究科）標準修業年限内の卒業（修了）率、「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率 ・ 資格の取得者数が確認できる資料 根拠資料6-8-1-1 平成29年度卒業生教員免許状取得状況及び就職状況 ・ 論文の採択・受賞状況、各コンペティション等の受賞状況が確認できる資料 根拠資料6-8-1-2 学生の表彰・受賞情報（Webサイト抜粋）
<p>分析項目6-8-2</p> <p>就職（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況（過去5年分）（別紙様式6-8-2）主な進学/就職先（起業者も含む） 別紙様式6-8-2（技術経営研究科）就職率（就職希望者に対する就職者の割合）及び進学率の状況 ・ 学校基本調査で提出した「該当する」資料（大学ポータルにある場合は該当URL） https://top.univ-info.niad.ac.jp/faculty/graduation-employment/0432/AY45/02/ ・ 卒業（修了）生の社会での活躍等が確認できる資料（新聞記事等） 根拠資料6-8-2-1 卒業（修了）生の社会での活躍
<p>分析項目6-8-3</p> <p>卒業（修了）時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-3-6 長岡技術科学大学広報誌「VOS 204号」 （再掲）根拠資料6-5-3-6 長岡技術科学大学専門職大学院技術経営研究科システム安全専攻 2018専攻案内 ※P20（システム安全専攻修了生からのメッセージ）
<p>分析項目6-8-4</p> <p>卒業（修了）後一定期間の就業経験等を経た卒業（修了）生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 ・ 意見聴取に関する資料（卒業（修了）後一定期間（例えば「5年間」等大学が適切と考える期間）経過時）

長岡技術科学大学 領域6（技術経営研究科 システム安全専攻）

	根拠資料6-8-4-1 平成30年度 修了後5年経過した社会人に対して実施したアンケート調査結果 根拠資料6-8-4-2 システム安全専攻修了生アンケート（非公表） 根拠資料6-8-4-3 ホームカミングディ2018実施報告 根拠資料6-8-4-4 ホームカミングディ2018アンケート集計結果
分析項目6-8-5 就職先等からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先や進学先等の関係者への意見聴取（アンケート、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料 根拠資料6-8-5-1 長岡技術科学大学出身者就業状況 調査結果（平成30年12月）
【特記事項】 ①上記の各分析項目のうち、根拠資料では、分析項目の内容を十分に立証できないと判断する場合には、当該分析項目の番号を明示した上で、その理由を400字以内で記述すること。	
分析項目6-8-〇	該当なし
②この基準の内容に関して、上記の分析のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、根拠資料とともに箇条書きで記述すること。	
活動取組6-8-A	該当なし
【基準に係る判断】 以上の分析内容を踏まえ、当該基準を満たすか満たさないか。（該当する口欄をチェック■） <input checked="" type="checkbox"/> 当該基準を満たす <input type="checkbox"/> 当該基準を満たさない	
優れた成果が確認できる取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	
改善を要する事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当なし 	